

中島遺跡・下河原遺跡

— 国道140号(西関東連絡道路)建設事業に伴う発掘調査報告書 —

2019. 3

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部

中島遺跡・下河原遺跡

— 国道140号(西関東連絡道路)建設事業に伴う発掘調査報告書 —

2019. 3

山梨県教育委員会
山梨県県土整備部



中島遺跡全景（南から）



下河原遺跡全景（北西から）

中島遺跡・下河原遺跡のあらまし

中島遺跡と下河原遺跡は、国道140号（西関東連絡道路）建設工事のため、同時期に並行して発掘調査された遺跡です。

平成29年8月のとても暑い時期に、1ヶ月間という厳しい状態での調査でしたが、この地域にとって、新しい発見がありました。

中島遺跡では、製塩土器と「馬」という文字が刻まれた土器が発見され、下河原遺跡では、堤防痕が確認できました。

製塩土器は、名前の通り塩に関する土器です。塩は海から遠い山梨でも、生活に必要であり、作るのに手間がかかる分、とても貴重なものです。発見された土器の破片は、小さな容器として作られたあとに、もう一度、加熱された痕がありました。そのため、土器の内側がボコボコに剥がれている状態でした。また、「馬」と書かれた土器は、山梨県内で作られた甲斐型土器の壊の底部の外側に、先端の尖った棒状の工具などによって刻まれていました。土器の研究から、この土器がつくられたのは、8世紀末から9世紀前半だと考えられます。製塩土器と馬という組み合わせは、県内では珍しいものです。



刻書土器「馬」



製塩土器片 外側



製塩土器片 内側

下河原遺跡からは、笛吹川の堤防痕が見つかりました。現在、笛吹川に沿って走る国道140号が、堤防の役目を果たし、この地域を川の氾濫から防いでいます。ここで見つかった堤防跡は、岩手橋西詰交差点付近の標高より、5mほど低い位置にあり、当時と今とでは違う景観であったと想像できます。昔の堤防は、川に対して矢羽のように堤防を作っていたようです。川の水が直接当たる川表の石は、現状を留めていませんでしたが、川裏の底石が一列だけ残り、川の氾濫という自然の猛威の凄まじさを、実感しました。当時の人々が、生活を守るために石積みを作った苦労の一瞥でも、記録に残すことができました。



堤防石列検出状況

序 文

中島遺跡・下河原遺跡は山梨県山梨市東に所在する遺跡です。2遺跡とも周知の埋蔵文化財包蔵地ですが、周辺での発掘調査が無かったことから、その内容はわかつていませんでした。発掘調査は、国道140号（西関東連絡道路）建設事業に伴っておこなわれ、今回が本事業の最終地点となります。工事に先立つ試掘調査から、中島遺跡は奈良・平安時代、下河原遺跡は近世以降の遺跡であることがわかりました。

中島遺跡は、遺構は発見されませんでしたが、調査区全体から出土した遺物の中から製塩土器と呼ばれる土器片と「馬」という文字が刻書された土師器底部片が発見されました。これらは、どの遺跡からも発見されるものではなく、古代の役所や寺院に関係する遺跡から発見されることが多いものです。山梨市域には、これらと類似する遺跡も多く、中でも、日下部遺跡は文字や記号の記された土師器が64点も出土する平安時代の代表的な集落跡です。また、三ヶ所遺跡では「塩毛」と刻書のある土師器が出土しています。

下河原遺跡は、堤防遺跡として登録されていましたが、詳細はわかつていませんでした。工事用地の西側から試掘調査をはじめ、一番東側の最終地点で発見されたものです。堤防は、石を積み上げたものと想定されますが残念ながら高さはわかりません。今回、発見されたものはその一番下の基礎となる川裏の石列でした。堤防には、水に直接当たる川表と裏側の川裏があります。川表や積み上げられた石積みのほとんどが壊されており、水による災害の凄まじさを実感します。しかし、この一箇所に残された石列の発見により、この地域に、堤防が存在していたことを証明するものとなりました。

今回の発掘調査によって、新しい発見と貴重な追加資料を得ることとなり、この地域が古代でも主要な地域であったことがわかりました。また、調査の原因となった西関東連絡道路は、平成30年3月に共用が開始され、交通渋滞の緩和に貢献し、秩父へ抜ける主要道路となって県民の利便性を高めています。

末筆になりましたが、発掘調査に伴い、ご支援、御協力いただいた方々へ感謝の意を表します。

平成31年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所長 馬場 博樹

例　　言

1. 本書は中島遺跡・下河原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査原因是国道 140 号（西関東連絡道路）建設事業であり、原因者は県土整備部道路整備課である。
3. 遺跡の所在は山梨県山梨市東地内である。
4. 調査主体　山梨県教育委員会
5. 調査体制　山梨県埋蔵文化財センター
所長　中山誠二（H29）・馬場博樹（H30）、次長　高野玄明
調査研究課長　今福利恵（H29）・笠原みゆき（H30）
史跡資料活用課長　保坂和博（H29）・今福利恵（H30）
発掘調査　笠原みゆき・井上彰雄・長田隆志・塩谷風季（H29）
整理作業　笠原みゆき・吉岡弘樹・長田隆志（H30）
6. 本書の編集は笠原みゆきが行った。第 1 章第 1 節を長田が、それ以外を笠原が執筆した。現場での写真撮影は、笠原・井上・塩谷・長田が、報告書掲載用の遺物の撮影はスタジオ・トータルアイに委託した。
7. 発掘調査は平成 29 年 7 月 25 日から 9 月 8 日まで実施された。
8. 整理作業は平成 30 年 1 月 9 日から平成 30 年 3 月 9 日まで、発掘現場での調査データの整理・測量委託の校正などを、平成 30 年 6 月 1 日から平成 31 年 1 月 31 日まで報告書作成に伴う基礎的・本格的整理作業を山梨県埋蔵文化財センターで行った。本書にかかる出土品および記録図面・写真・出土遺物・デジタルデータなどは、一括して埋蔵文化財センターで保管している。
9. 発掘調査に係る調整機関は、山梨県教育庁学術文化財課でおこない、担当は久保田健太郎である。
10. 発掘調査の基準となったグリッド杭打ち・基準標高測量および遺跡の空中撮影、遺構の平面図化等は（株）テクノプランニング甲信支店に委託した。また、発掘調査・整理作業での測量機材を（株）テクノプランニング甲信支店で借り上げ、ソフトは CUBIC 社製遺構実測支援ソフト電子平板「遺構くん」を使用した。デジタルトレース用のパソコンやタブレットは（株）カルクより借り上げた。
11. 発掘調査・報告書作成に当たり、以下の方々にご教示・ご協力を賜った。記して感謝申し上げたい。（順不同、敬省略）佐々木嘉彦（東地区区長）、山梨市教育委員会、三澤達也（山梨市教育委員会）、畠大介・平野修（帝京大学文化財研究所）、末木健（山梨県考古学協会会長）・保坂康夫（山梨学院大講師）
作業員（発掘調査）穴山公、新谷博朋、飯室恵子、猪股順子、大森博、小林英樹、小林文昭、曾根喜久美、鷹野勉、堤龍生、直井光江、中込柳、中村昭、中村公成、名取新一郎、名取貴大、萩原森嗣、早川あゆみ、樋川芳久、弘内茂明、藤原正大、水上喜正、宮城良男、宮下善雄、吉田めぐみ、米山文徳、若月あい子（整理作業）梶原初美、小池美保子、流石理恵子、平川涼子

凡　　例

- ・遺跡の範囲図（路線図）は 1/4000
- ・遺構実測図の縮尺　遺物出土状況 1/80、断面図 1/60
- ・遺物実測図の縮尺は土師器 1/3、陶磁器 1/3、古銭 1/1
- ・方位や標高は、図版内に記載している
- ・遺物は遺跡ごと通し番号とし、注記は H29 中ジマ P1 ~、H29 下ガワラ P1 ~とした。

目 次

あらまし

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の経過

第1節	調査に至る経過	1
第2節	調査の目的と課題	2
第3節	発掘作業の経過	2
第4節	整理等作業の経過	2

第2章 遺跡の位置と環境

第1節	地理的環境	4
第2節	歴史的環境	5

第3章 調査の方法と成果

第1節	調査の方法	8
第2節	層序	8
第3節	中島遺跡の遺構と遺物	9
第4節	下河原遺跡の遺構と遺物	10

第4章 まとめ

第1節	中島遺跡について	12
第2節	下河原遺跡について	12～13

遺構図版

遺物図版

写真図版

図版・表・写真目次

卷頭図版	中島遺跡全景（上から）	
	下河原遺跡全景（西から）	
あらまし	刻書土器「馬」	
	製塙土器片 外側	
	製塙土器片 内側	
	堤防石列検出状況	
第 1 図	中島遺跡・下河原遺跡発掘調査範囲図	3
第 2 図	平成 29 年度 試掘トレンチ位置図	3
第 3 図	遺跡位置図	4
第 4 図	周辺の遺跡分布図	6
第 5 図	土層柱状図	8
第 6 図	中島遺跡全体図	15
第 7 図	中島遺跡出土遺物（ドット図）	15
第 8 図	中島遺跡遺物出土状況 調査区断面図	16
第 9 図	下河原遺跡全体図	17
第 10 図	下河原遺跡・石列 断面図	18
第 11 図	中島遺跡出土遺物 1	19
第 12 図	中島遺跡出土遺物 2	20
第 13 図	中島遺跡出土遺物 3	21
第 14 図	中島遺跡出土遺物 4	22
第 15 図	中島遺跡出土遺物 5	23
第 16 図	下河原遺跡出土遺物	24
第 1 表	周辺の遺跡一覧表	7
第 2 表	出土遺物一覧表	11
第 3 表	山梨市内の墨書き一覧表	14
写真図版 1	中島遺跡・下河原遺跡発掘調査 1	
写真図版 2	中島遺跡・下河原遺跡発掘調査 2	
写真図版 3	中島遺跡・下河原遺跡発掘調査 3	
写真図版 4	中島遺跡出土遺物 1	
写真図版 5	中島遺跡出土遺物 2・下河原遺跡出土遺物 1	

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経過

調査は、国道140号（西関東連絡道路）建設事業に伴うII期工事として実施された。この道路は、山梨県甲府市から埼玉県深谷市に至る延長約110kmの広域高規格道路で、慢性的な国道140号の渋滞緩和のために計画されたものである。平成29年度の供用開始を目指し工事が進められ、国道140号の岩手橋西詰交差点手前で合流する最終地点となる。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地の中島遺跡・下河原遺跡として山梨市遺跡分布図に示されている。工事に先立つ試掘調査は、平成28年9月14日から16日に下河原遺跡に当たる調査対象面積約2,497m²のうち約408m²を実施した。調査の結果、若干の磁器片が発見されるも遺構等は確認できなかった。また、同年度内に実施する予定であった中島遺跡の試掘調査については、平成29年度に持ち越された。平成29年度には、工事予定地内の残り部分全域の試掘調査を平成29年4月18・19日、5月16日から22日の2回に分けて実施した。4月に実施した中島遺跡（曳家作業を行う橋脚部分）と、5月に実施した下河原遺跡（収用手続きが行われる本線部分）について、工事優先順位に基づき試掘調査を行い、前者では縄文時代と奈良・平安時時代の遺物を、後者では近世以降の堤防跡を発見した。

この結果により本調査が必要となり、試掘トレンチの遺物・遺構出土状況を考慮し、本調査の範囲を確定した。また、道路は平成29年度中の供用開始が決まっており、そこから逆算すると8月に発掘調査を実施せざるを得ない状態であった。調査を実質1ヶ月で終わらせるために、下河原遺跡の厚い盛り土の除去は、本体工事の一貫として場外への持ち出しをお願いし、平成29年7月25日～9月8日までの期間で、2遺跡同時の発掘調査を実施することとなった。

○協議・打ち合わせ等

[平成29年度]

- ・平成29年4月21日 西関東連絡道路建設工事に伴う試掘調査の結果について協議
- ・平成29年5月23日 県土整備部道路整備課・新環状・西関東道路建設事務所・学術文化財課・埋文センターで本調査の実施について協議
- ・平成29年6月16日 西関東連絡道路岩手ランプ建設工事に伴う中島・下河原遺跡発掘調査について協議

○調査に係る事務手続き

文化財保護法に基づく通知や発掘調査成果に係る報告を行った。それらの事務手続きは以下の通りである。

[平成29年度]

- ・平成29年6月26日付で、山梨県県土整備部道路整備課長と山梨県教育委員会学術文化財課長とで国道140号（西関東連絡道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書を締結〔教学文第1073号：道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書締結について〕
- ・平成29年8月1日・2日 文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告を山梨県教育委員会教育長へ（1日）、山梨市教育委員会教育長へ（2日）提出〔教埋文第254号：埋蔵文化財発掘調査の実施について【中島遺跡・下河原遺跡】〕
- ・平成29年10月2日 文化財保護法第100条第2項の規定により埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ依頼〔教埋文第370号：埋蔵文化財（中島遺跡・下河原遺跡）の発見について〕
- ・平成29年12月4日 発掘調査の終了報告を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出〔教埋文第254号-1：埋蔵文化財発掘調査の終了について【中島・下河原遺跡】〕
- ・平成30年3月23日 実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第778号：実績報告書の提出について【中島・下河原遺跡】）

[平成30年度]

- ・平成30年6月6日付で、山梨県県土整備部道路整備課長と山梨県教育委員会学術文化財課長とで道路事業（中島遺跡・下河原遺跡）に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書を締結〔教学文第867号：道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書締結について〕

- ・平成31年度3月15日に報告書の刊行・発送が完了した。

第2節 調査の目的と課題

国道140号（西関東連絡道路）建設工事に伴う調査である。平成28年度には8本、平成29年度には15本の試掘トレーナーを調査した結果、中島遺跡・下河原遺跡とも遺構・遺物が発見された。山梨市市域でも、調査の少ないこの地域は、遺跡の詳細については不明な点が多くあった。しかし、平成26年度、当遺跡に近接する東田遺跡が、農道整備に伴い発掘調査された。東田遺跡は中世・近世の社寺跡といわれており、円福寺・岩手氏館跡を想定した調査であった。調査の結果、寺院や居館を示す資料の検出には至らなかったが、縄文時代・平安時代・近世に属する遺物が発見されている。そのため、摩耗の少ない平安時代の土師器が多量に出土した中島遺跡では、平安時代の集落跡が発見できる可能性が期待された。また、下河原遺跡では、笛吹川流域の堤防としては、雁行堤のような石積みの堤防が、川沿いにどのように作られていたのかを明らかにすることを目的とし、発掘調査に取り組んだ。今回の調査は、道路の供用開始に合わせ、緊急的に実施したものであり、調査期間に制限があった。しかし、開発に伴って壊されてしまう遺跡の情報を記録保存し、後世に伝えていくことが本調査の目的であり、限られた期限内での遺跡の情報を迅速に捉え、工事の工程との調整をすることも課題であった。

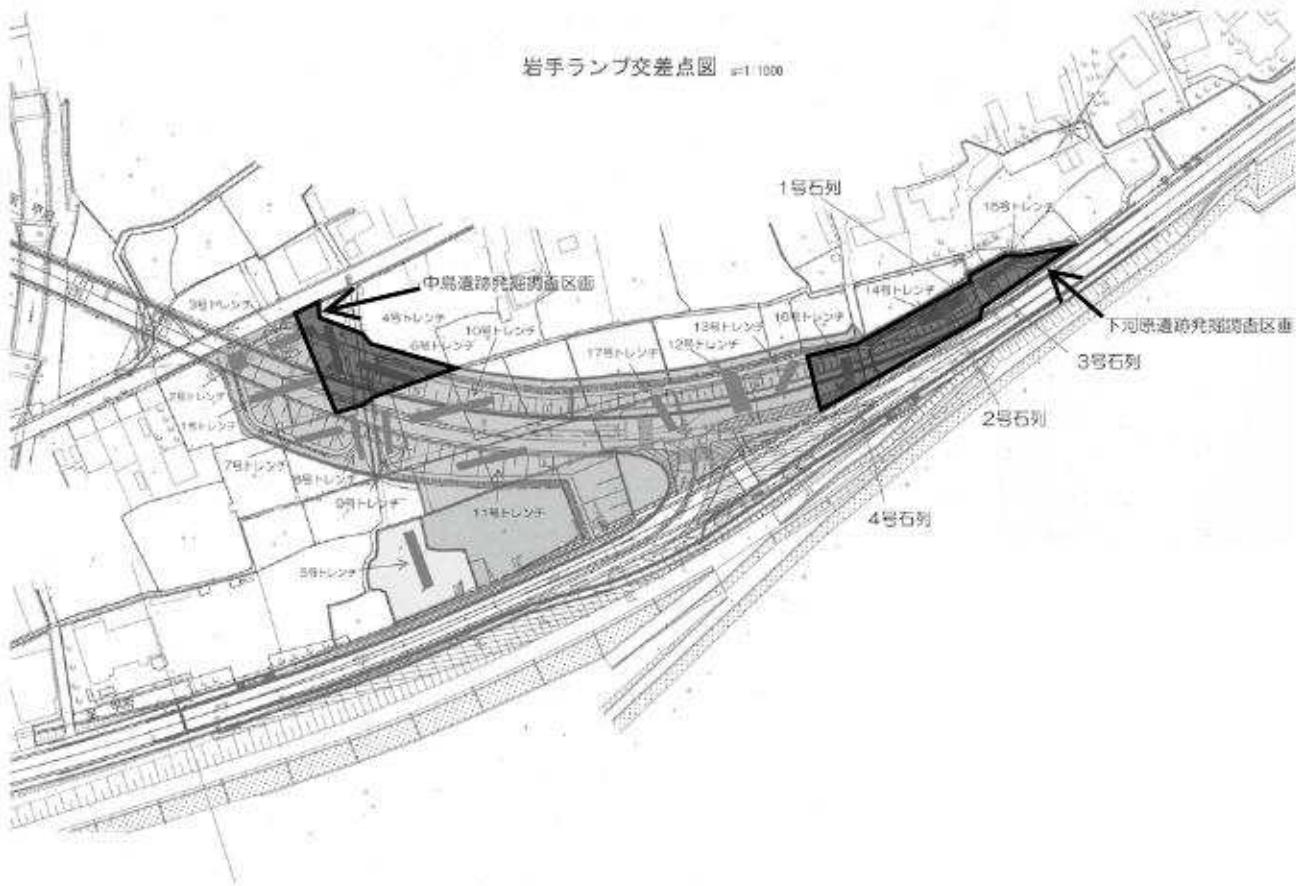
第3節 発掘作業の経過

中島遺跡・下河原遺跡は、笛吹川左岸に平行して存在する遺跡である。周知の包蔵地として登録されており、中島遺跡が上段、下河原遺跡が下段と、段状に存在していた。この発掘調査は、平成28年度内に試掘調査を終了し、その結果に基づき、H29年度に実施される予定であったが、用地の取得や用地内の民家の曳き家作業が困難であり、試掘調査がH29年度当初に持ち越されたものである。試掘調査の結果、中島遺跡では平安時代の遺物が、下河原遺跡では堤防の石列が発見され、県土整備部道路整備課と学術文化財課、埋蔵文化財センターでの協議の結果、年内の供用開始を目指し、1月の期間で調査を実施することにした。発掘調査と建設工事が平行する状況のなか、調査に先立ち中島遺跡では、民地境のよう壁工事が実施されるなど、緊急性の高い状態であった。発掘調査は、平成29年7月25日に重機による下河原遺跡の表土剥ぎを開始した。道路建設工事と並行して発掘調査を実施するため、工事車両の行き来の少ない下河原遺跡から4日間、続いて中島遺跡を3日間で表土剥ぎを実施した。中島遺跡では表土剥ぎが終わったあと、ベルトコンベアの設置を行い、8月7日から週5日2月以内の埋蔵文化財臨時職員を任用し、発掘作業を開始した。臨時職員の募集については、ハローワークへ求人申込書を提出し、募集人員25人のところ、21人の応募があった。重機による表土剥ぎ後、人力による掘削・精査を行い、土層の堆積状況の確認や光波測量および写真撮影等による遺構・遺物等の記録化を行った。また、外部委託による杭打ち（世界測地系座標による基準杭の設置）作業を各調査開始時（8月9日、10日）に、空中写真撮影を各調査区の調査終了時（9月6日）に実施し、9月8日をもって調査を終了した。発見届けは、平成29年10月2日に学術文化財へ提出し、その後、学術文化財から所轄警察署へ提出されている。平成29年12月4日付けで、終了報告を学術文化財課に提出した。

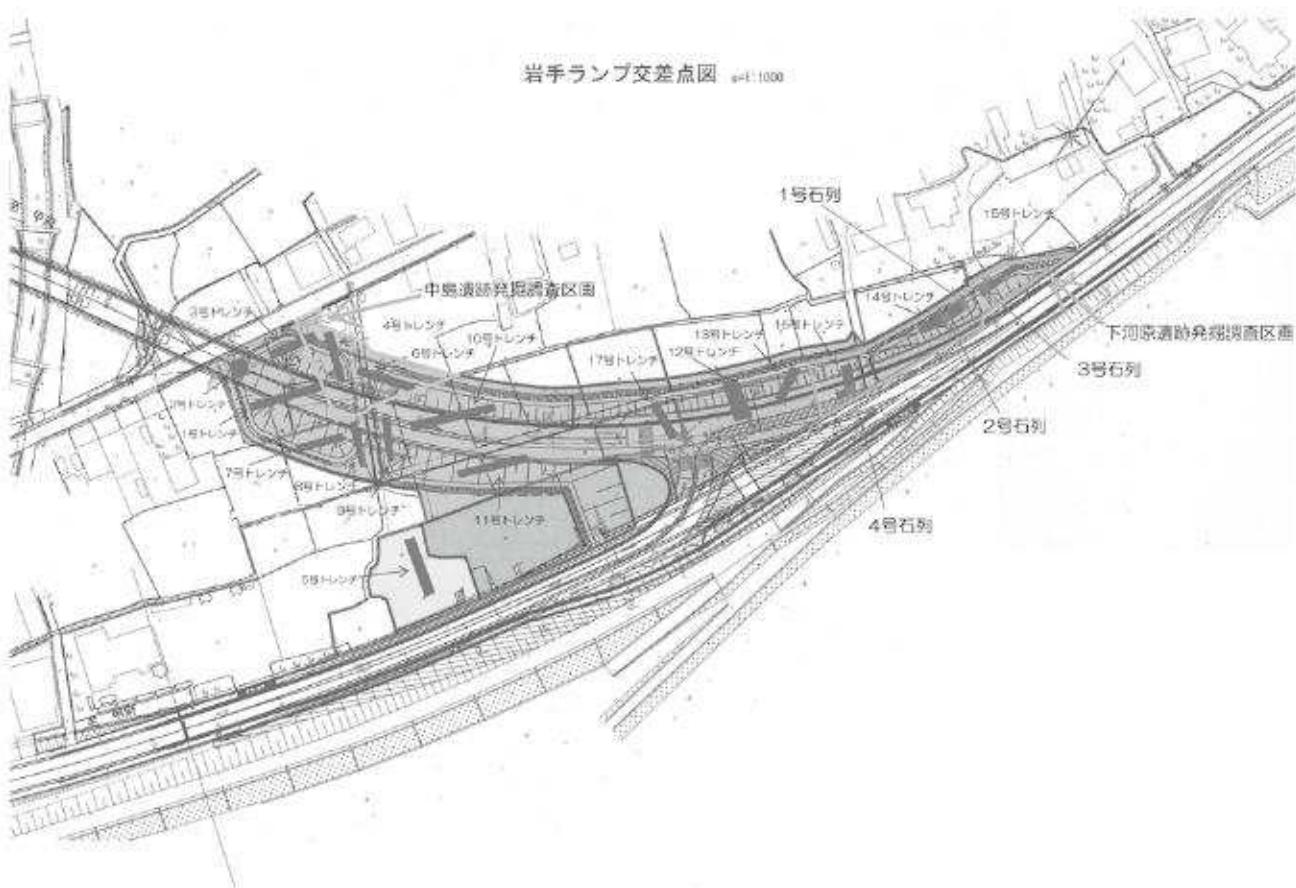
第4節 整理等作業の経過

H29年度の当初計画に無い緊急発掘であったため、年度内は、発掘調査データ・写真整理、空撮図化の委託業務のみ、担当者でおこない、平成30年度に基礎的・本格的整理・報告書刊行を実施した。

中島遺跡・下河原遺跡の遺物出土量は、プラスチック収納箱にして10箱（中島遺跡9箱、下河原遺跡1箱）である。室内における図面整理・出土品の洗浄などの基礎的整理作業を平成30年7月2日から8月16日まで実施した。また、遺物の接合や実測作業等を中心とした本格的整理作業を平成30年8月17日から開始し、平成31年1月31日まで4名の作業員を雇用して実施した。作業内容は、遺物の水洗作業から始まり、注記、接合、実測、トレース、版組作業を実施し、併せて原稿執筆・入稿・校正作業を進め、報告書刊行をおこなった。



第1図 中島遺跡・下河原遺跡発掘調査区範囲図

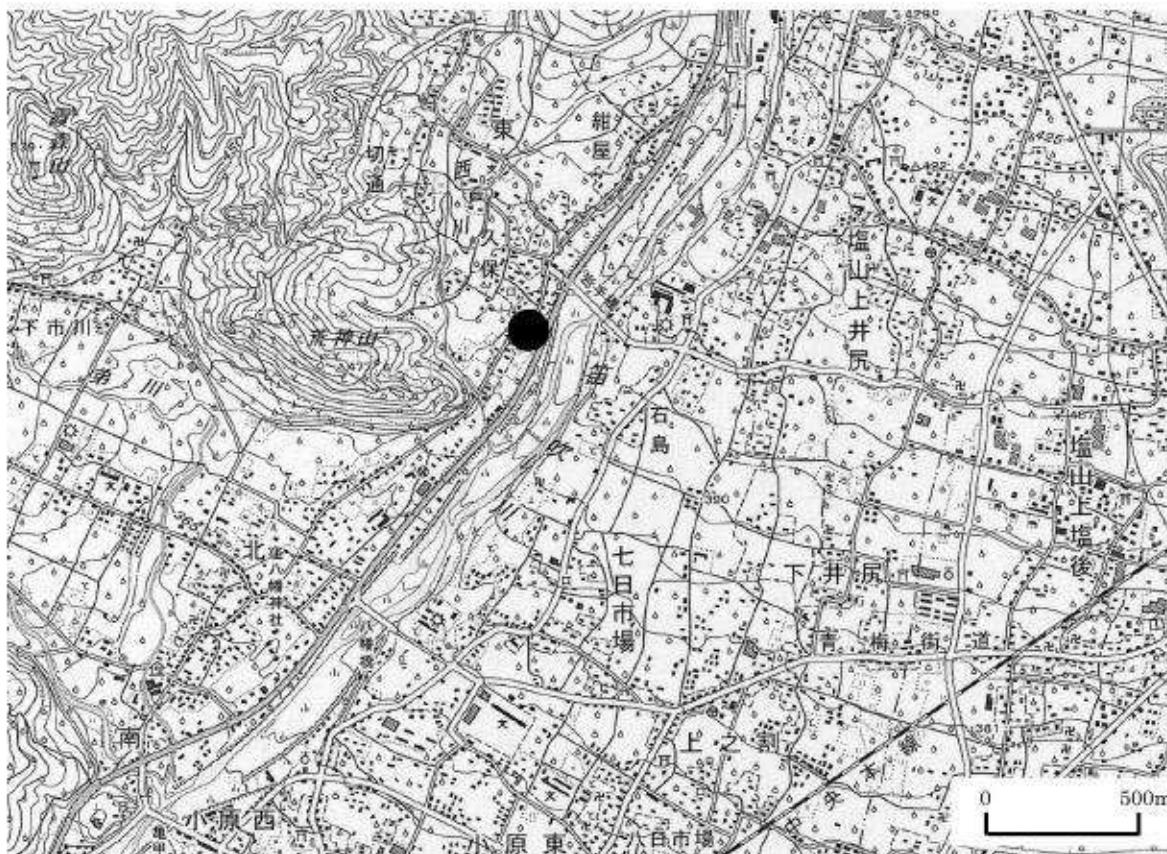


第2図 平成 29 年度 試掘トレンチ位置図

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

甲府市桜井の英和大学の入り口付近から山梨市岩手橋西詰交差点手前まで西関東連絡道路を利用することができる。国道140号が慢性的に渋滞し、住民生活に支障をきたすことから建設が計画され、平成30年3月に供用が開始された道路である。今回、発掘調査された中島遺跡・下河原遺跡は、この道路の最終地点であり、国道140号より山際を走っていた西関東連絡道路が、国道140号と合流する地点となる。所在は山梨市東にあり、標高477.6mの荒神山の東裾を北から南へ流れる西川と、甲武信ヶ岳・国師ヶ岳・奥千丈岳から南西に流れる笛吹川が合流する付近でもある。笛吹川と併走する国道140号の西側に位置し、河川の氾濫でできた低い段差が形成されていた。段上が中島遺跡、段下が下河原遺跡である。遺跡は南北に細長い広がりがあると考えられていたが、中島遺跡では南側の一部、下河原遺跡では北側の一部でしか、遺跡の広がりが確認できなかった。唯一、この地域で発掘調査がなされた東田遺跡の報告書には、産業技術総合研究所地質調査総合センター「地質図Navi」と山梨市の遺跡地図を合成した図が掲載されている。この図を見ると、東田遺跡は、標高393.0mの低位段丘にある。この低位段丘の堆積物は、笛吹川右岸では、市川、南、万力二・三区、正徳寺付近に広がっている。また、左岸では笛吹川に沿って中位段丘が広がり、日下部遺跡など多くの遺跡が形成されている。中島遺跡と下河原遺跡は、この図でみると、笛吹川に沿って堆積された沖積層に含まれている。この沖積層の中でも河川の流れによって削られた段差が生じているようである。中島遺跡は、少し高い上段にあり、周囲には民家が立ち並び集落を形成している。集落の中央には道がはしり、この道を挟んで北側に東田遺跡のある低位段丘となる。中島遺跡より下段の下河原遺跡は、笛吹川流域に作られた堤防跡として周知されていており、土壠が残っていると考えられていた。現状は果樹と畑地であったが、地表下20から30cmで河川の氾濫によってもたらされた大きな礫が確認できる。調査前の地形について、遺跡の南側付近では、道路も畑も同じくらいの標高であったが、調査区北側の岩手橋西詰交差点に向け比高差が大きくなっている、笛吹川に沿う堤防の役割を担っている。



第3図 遺跡位置図（国土地理院 1/25,000）

第2節 歴史的環境

遺跡の所在する山梨市は旧山梨市域で194、旧牧丘町域で88、旧三富村域で32、合計413箇所の遺跡がある。⁽¹⁾ ここでは、注(1)に記載された遺跡番号に沿って記述していく。中島遺跡(05027)・下河原遺跡(05029)は、旧山梨市域の中でも北側に位置し、笛吹川と西川が荒神山の南で合流する辺りから、上流に80mほどにある。笛吹川の右岸に存在し、その周辺には、縄文時代と平安時代の遺跡が点在する。縄文時代では、村西遺跡(05021)・丸山遺跡(05022)・大久保遺跡(05023)が近接している。また、久保西遺跡(05028)と同様、丸山遺跡・大久保遺跡は平安時代の遺跡である。この地域では発掘調査が実施されず、詳細な情報が長くわからない状態であったが、平成26年に山梨県農政部峡東農務事務所の畠地帯総合整備事業のうち、農道5号整備に伴う東田遺跡(05033)の発掘調査が、山梨市によって行われた。東田遺跡は中世・近世の寺社跡として知られた遺跡であったことから、円通寺や岩手氏館跡を想定して調査が行われた。しかし、これらに関する遺構は発見されなかった。遺物は縄文土器・平安時代の土師器・近世以降の陶磁器片などが調査区全面から発見された。⁽²⁾ 今回は、これに次ぐ2例目の発掘調査となった。東田遺跡の北側には近世の城館跡である上野氏屋敷(05173)がある。遺跡の多くが西川と笛吹川に削られたであろう低い河岸段丘上にあり、その一段高い先端に上野氏屋敷はある。中島遺跡・下河原遺跡は段丘から一段低い氾濫原にある。当遺跡の西側には、標高約477.6mの荒神山が存在する。荒神山の南斜面には、平安時代の窯跡(荒神山窯跡05181)が、その横には中下西遺跡(05035)がある。荒神山の南側の縁を巡るように、膳棚遺跡(05191)が広がっている。膳棚遺跡は、H23からH25年にかけて同事業に伴う発掘調査で発見された遺跡である。平安時代の集落跡で、荒神山窯跡で焼かれた土師器との関係も考えられたが、明確な検証にはいたらなかった。膳棚遺跡のさらに南側には、中世の窪八幡神社(05282)があり、国の重要文化財に指定されている。笛吹川の対岸に目を向けると、岩手橋を渡り、甲州市塩山との市境周辺に、宮の前(七日子)遺跡がある。この遺跡は、縄文・古墳・奈良・平安時代と様々な時代に生活の痕跡が見える遺跡である。昭和21年の七日子神社境内が開墾されたことが発端となり、昭和22年から数度に渡り調査されている。その結果、住居跡や炉跡など、平安時代の遺構・遺物などが発見されている。下弥勒遺跡(05086)・天神原北遺跡(05087)・中沢遺跡(05084)・西ノ窪遺跡(05080)・天神原南遺跡(05081)など、縄文時代・平安時代の沢山の遺跡が分布する地域でもある。さらに少し南に下がると、ちょうど窪八幡神社の対岸あたりに、立石遺跡と日下部遺跡が見えてくる。日下部遺跡は、平安時代の代表的な遺跡として古くから知られており、墨書き土器を64点も出土している。

特に「王」という文字が多く出土していることでも知られている。日下部遺跡から八幡・岩手地域一帯は、律令制の時代、山梨郡加美郷と考えられている地域である。この周辺には、奈良時代から平安時代にかけての遺跡が数多く点在している。また、笛吹川沿いには、万力公園内に雁行堤(5184)があり、現存する石積みの堤防として保存されている。笛吹川をさらに下ると笛吹川堤防群(5194)がある。山梨市域では、笛吹川の下流域で堤防が複数箇所で確認されているが、下河原遺跡で発見された堤防は、市域の北側での数少ない貴重な発見例になった。

注)

(1)『山梨市市内遺跡発掘調査報告書2017』2018.3 山梨市文化財調査報告書 第29集 山梨市教育委員会

(2)『東田遺跡一畠地帯総合整備事業岩手地区農道5号整備に伴う発掘調査報告書』山梨市文化財調査報告書第21集 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・昭和測量株式会社

参考

資料1『山梨市史』 通史編上巻 山梨市 平成19年3月25日発行



第4図 周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
5001	御毛遺跡	散布地	平安・中世	5098	前田道跡	散布地	平安
5002	830H遺跡	散布地	縄文・平安	5099	宮ノ上遺跡	散布地	平安
5003	新田往還跡	散布地	甲狀	5100	上手始遺跡	散布地	縄文
5004	鶴平道跡	散布地	縄文	5101	須磨道跡	散布地	平安・中世
5005	船山遺跡	散布地	縄文・中世	5102	吉原遺跡	散布地	平安
5006	小堀遺跡	散布地	平安	5103	大瀬遺跡	散布地	平安・中世
5007	大工北遺跡	散布地	縄文・古墳・平安	5104	鷺口遺跡	散布地	古墳・平安・中世
5008	菅平遺跡	散布地	平安	5105	河野佐尼敷	季の跡	中世・近世
5009	吉原遺跡	散布地	平安	5106	新田柴田跡	散布地	縄文
5010	大工南遺跡	散布地	縄文	5107	三ヶ所遺跡	集落跡	平安・中世
5011	市川北遺跡	散布地	縄文	5108	前田宿久那遺跡	散布地	古墳
5012	市川西遺跡	散布地	縄文	5109	東後屋敷遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
5013	柳田遺跡	集落跡	縄文	5110	大瀬前柴田跡	散布地	縄文・平安
5014	竹北南遺跡	散布地	平安	5111	高瀬道跡	集落跡	縄文・古墳・平安
5015	津町前遺跡	散布地	平安	5112	根木本遺跡	集落跡	平安
5016	大塚遺跡	散布地	平安	5113	那高北道跡	散布地	平安
5017	市川東遺跡	散布地	縄文	5114	那高南遺跡	散布地	衛生・古墳
5018	切通西遺跡	散布地	平安	5115	那高西道跡	散布地	古墳
5019	堤下遺跡	散布地	平安	5116	大瀬前町北遺跡	散布地	平安
5020	藤の木道下遺跡	散布地	縄文・平安	5117	市道遺跡	散布地	平安
5021	日吉遺跡	散布地	縄文	5118	移ノ木道跡	集落跡	古墳
5022	丸山遺跡	散布地	縄文	5119	君林道跡	散布地	縄文・古墳・平安
5023	大久保遺跡	散布地	縄文・平安	5120	北高東道跡	散布地	縄文
5024	切通南遺跡	集落跡	縄文・平安	5121	星畠塗遺跡	散布地	平安・中世
5025	切通東遺跡	散布地	平安	5122	上石森塗遺跡	散布地	縄文・平安
5026	鶴井坂遺跡	散布地	平安・中世	5123	宮ノ内道跡	散布地	平安
5027	中島遺跡	散布地	縄文・平安	5124	上根木道跡	散布地	奈良・平安・中世
5028	久保内遺跡	散布地	平安	5125	新林山道跡	散布地	縄文・古墳・平安
5029	下河原遺跡	史跡	中世・近世	5126	堤ノ内道跡	集落跡	衛生・平安
5030	於北道跡	その他の	中世・近世	5127	原道跡	散布地	中世
5031	西片山遺跡	その他の墓	中世・近世	5128	根木道跡	散布地	古墳
5032	切通北遺跡	その他の墓	中世・近世	5129	仁ノ門六王子道跡	散布地	平安
5033	東田遺跡	新跡	中世・近世	5130	三ヶ所製木遺跡	散布地	平安
5034	久保内遺跡	散布地	平安	5131	製木道跡	散布地	平安
5035	下不内遺跡	散布地	平安	5132	山道遺跡	散布地	平安
5036	音刈遺跡	散布地	縄文	5133	歌田金糸道跡	散布地	平安
5037	空尾鏡遺跡	散布地	縄文・平安	5134	船内山道跡	散布地	古墳
5038	赤田遺跡	散布地	縄文	5135	松賀製木道跡	散布地	縄文・古墳・奈良
5039	久保田遺跡	散布地	縄文	5136	御原堂遺跡	散布地	古墳
5040	江内原遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安	5137	西条道跡	散布地	平安
5041	上コブア道跡	集落跡	縄文・古墳・平安	5138	良田道跡	散布地	古墳・平安
5042	片川河床遺跡	その他の	古石器	5139	西田道跡	散布地	縄文・平安
5043	但野山東山遺跡	散布地	平安	5140	御屋町道跡	散布地	衛生・古墳・平安
5044	人神原遺跡	散布地	縄文・平安・中世	5141	宮後道跡	散布地	平安
5045	朝伊山西道跡	散布地	古墳・平安	5142	足利山道跡	散布地	平安
5046	京ノ前遺跡	散布地	奈良	5143	治田道跡	散布地	古墳・平安
5047	良田道跡	散布地	縄文	5144	東小路道跡	散布地	縄文・平安
5048	唐田遺跡	その他の墓	中世・近世	5145	大移走道跡	散布地	縄文・衛生・古墳・平安・中世
5049	企母遺跡	散布地	縄文・平安	5146	大林南道跡	散布地	平安
5050	延喜寺道跡	集落跡	務農・古墳・平安	5147	中道北道跡	散布地	平安
5051	千原田遺跡	集落跡	古墳・平安	5148	中道南道跡	散布地	平安
5052	地藏久保遺跡	散布地	平安	5149	水呑院西山道跡	散布地	平安
5053	火之下遺跡	散布地	中世	5150	長瀬秀前古墳	古墳	古墳
5054	光長遺跡	散布地	平安・中世	5151	御井塙古墳	古墳	古墳
5055	落合市道跡	散布地	平安	5152	山寺古墳	古墳	古墳
5056	小穂寺前山道跡	散布地	平安	5153	大神塙古墳	古墳	古墳
5057	林霞道跡	散布地	平安	5154	牧洞古墳	古墳	古墳
5058	星敷道跡	散布地	平安・中世	5155	平塚古墳	古墳	古墳
5059	船之内塙跡	散布地	平安	5156	船塙古墳	古墳	古墳
5060	小金田道跡	散布地	縄文	5157	津田無名塙	古墳	古墳
5061	牛原道跡	散布地	古墳・平安	5158	中原黒名塙	古墳	古墳
5062	田原之瀬塙跡	散布地	平安	5159	赤い塙古墳	古墳	古墳
5063	二段地道跡	散布地	平安・中世	5160	岩下寺古墳	古墳群	古墳
5064	小沢家道跡	集落跡	平安・中世	5161	山根古墳群	古墳群	古墳
5065	三官寺遺跡	散布地	平安・中世	5162	高土壤	富士塙	近世
5066	九ツ塚道跡	散布地	平安・中世	5163	荒砂塙	その他の	中世・近世
5067	五郎脣遺跡	散布地	平安	5164	弘前城跡	城跡	中世
5068	寺の下遺跡	散布地	縄文・古墳・平安	5165	切原の櫻山道跡	城跡	中世
5069	平塚遺跡	散布地	平安	5166	丸山の峰火台跡	城跡	中世
5070	塙越遺跡	散布地	古墳・中世	5167	御前山城跡	城跡	中世
5071	松原遺跡	散布地	中世	5168	櫛山の峰火台跡	城跡	中世
5072	丁丁部病院前道跡	散布地	古墳	5169	内山城跡	城跡	中世
5073	八王子道跡	集落跡	縄文	5170	野青坂西戻跡	城跡	中世
5074	立石遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	5171	武田金谷屋敷跡	城跡	中世
5075	日下部遺跡	集落跡	縄文・衛生・治癒・平安・中世	5172	落合道跡	城跡	中世
5076	西久保遺跡	散布地	縄文・平安	5173	上野瓦屋敷	城跡	近世
5077	下ノ駒遺跡	散布地	縄文	5174	奥伊庭屋敷跡	城跡	中世
5078	大塚道跡	散布地	奈良・平安	5175	池方屋敷	城跡	中世
5079	宮ノ前(七日子)道跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	5176	安田義定跡	城跡	中世
5080	舟ノ舟道跡	散布地	縄文・平安	5177	安田義定跡	城跡	中世
5081	人神原南道跡	散布地	平安	5178	奥原氏屋敷跡	城跡	中世
5082	豫原野塙跡	跡塙	中世・近世	5179	奥原氏屋敷跡	城跡	中世
5083	十王貴遺跡	散布地	奈良・平安	5180	大野野塙	城跡	中世
5084	小沢道跡	散布地	平安	5181	荒野山跡	塙跡	平安・中世
5085	御明道跡	散布地	奈良・平安	5182	羅八幡神社	神社	中世
5086	下青柳遺跡	散布地	縄文・平安	5183	岸八幡神社社家坊中塙	社寺跡	中世・近世
5087	人神原北道跡	散布地	縄文・平安	5184	簞行堤	堤防・道路	近世
5088	和田北道跡	散布地	古墳	5185	田安陣屋跡	陣屋跡	近世
5089	和田南道跡	散布地	甲狀	5186	清水陣屋跡	陣屋跡	近世
5090	唐土道跡	散布地	古墳・中世	5187	足原道跡	集落跡	古墳・平安・中世
5091	根穴道跡	散布地	中世・近世	5188	慈林道跡	散布地	縄文
5092	江坂遺跡	散布地	平安	5189	根本道跡	集落跡	姫門・古墳
5093	御里豈家古墳	散布地	縄文・平安	5190	越り山道跡	集落跡	古墳
5094	御里豈家道跡	散布地	平安	5191	網掛道跡	集落跡	平安
5095	阿秀花室道跡	散布地	縄文・古墳・奈良・平安	5192	神明前道跡	社寺跡	中世・近世
5096	大津原遺跡	散布地	平安	5193	頭八幡神社日比地跡	社寺跡	平安・中世
5097	首ノれ道跡	散布地	古墳・中世	5194	新野川堤防跡	冬の堤防(現防砂)	近世・近現代

第1表 周辺の遺跡一覧表

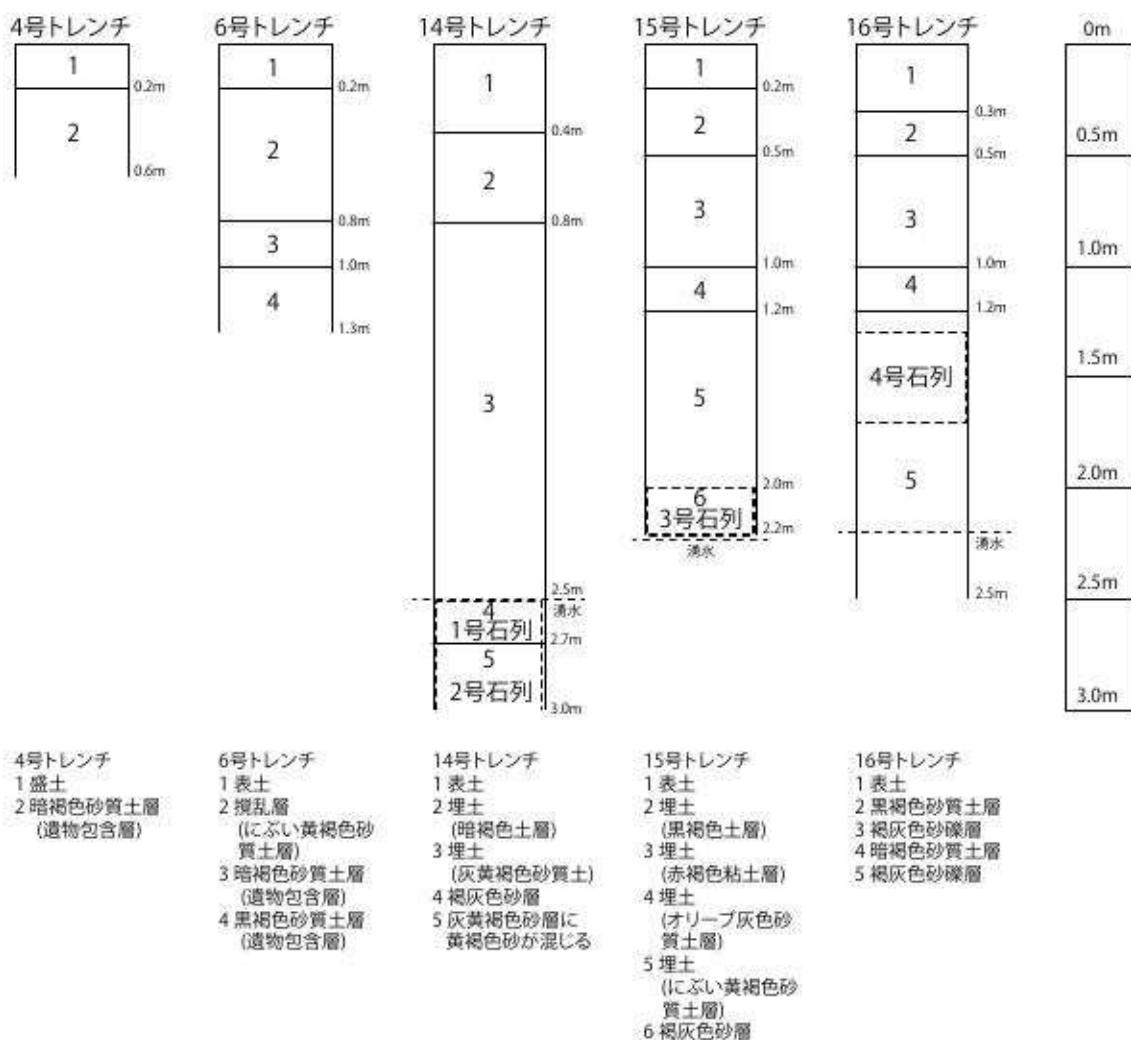
第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

両遺跡とも試掘調査の結果をもとに重機による表土の除去を実施後、人力による遺物包含層の掘削・遺構の精査を行った。中島遺跡は調査面積約540m²、下河原遺跡の調査面積は約740m²であり、調査区内に5mのグリットを設置し、発見された遺構や遺物・土層の堆積状況は、実測を行い、図化（断面図や遺物・遺構の微細図）し、光波測量機によるデジタル計測、フィルムカメラとデジタルカメラでの写真撮影等で記録保存を行った。また、調査終了時には、各遺跡ともラジコンヘリコプターによる空中撮影を行った。中島遺跡では、大きめの破片遺物が比較的多く検出された範囲、下河原遺跡では、石列の平面・断面の空撮図化を行なった。

第2節 層序

中島遺跡では包蔵地内に設置した5本のトレンチから遺物が発見された範囲を本調査とし、下河原遺跡では12本のトレンチの内、東側の3本の範囲を本調査とした。試掘調査で観察した土層堆積をそのまま活用する。中島遺跡の4・6トレンチからは、20センチほどの整地面（表土）の下に遺物包含層があり、トレンチによって包含層の厚さに違いがあった。下河原遺跡の14・15・16トレンチでは、石列の確認面すぐ上までが埋土であった。いつの時期に埋められたのかは判明しないが、石列の上に石垣、その上に道路のコンクリート壁や側溝などが作られていることから、幾度か工事がおこなわれたことがわかる。



第5図 土層柱状図

第3節 中島遺跡の遺構と遺物

第1項 遺構

中島遺跡は、調査面積約540m²であり、明確な竪穴建物跡や土坑などの遺構が検出されなかった。調査区は、西関東連絡道路の岩手ランプ建設に伴う橋脚部分の東側にあたり、民家を曳家工法にて東に移動させた場所である。6本のトレンチを設置し、試掘調査を実施した結果、そのうちの3・4・5・6トレンチから遺物が多数検出された。当初は、川の氾濫原への流れ込みとも考えたが、出土した土師器の割れ口が磨耗しておらず、比較的大きめの破片が多かったことから、河川の流れによって上流から流れてきたものではなく、水害などにあって壊された集落跡と判断した。遺物は調査区内全体から出土し、大きめの破片が出土した部分を遺物集中1・2とした。

遺物集中1は、D3～D4グリッドに位置し、大きめの甕の破片が重なっていた。周辺には東西約3m、南北約2.8m程に人頭大の礫が円形に巡るようにも見える。その内側には石が少なく、そこから遺物が出土している。遺物集中2はC2グリッドに位置している。東西約1m、南北約1m50cmほどの範囲で、土師器壊の破片が出土した。遺物が出土する部分は、こちらも比較的大きめの石が少ない場所で、「馬」の刻書のある土器はここから出土している。調査区内の遺物包含層は、北側が浅く南側に向かって厚く堆積する様子が見られる。北側は曳家した民家があった場所で、家の基礎が深く入っていなかった分、場所によって包含層の堆積は一定でないが、遺物の出土が多い。調査区南西側は、民家の付随施設の痕跡があり搅乱も多かった。特に地下室として使われていた長軸約3m、短軸約2m、深さ現状で約1mの長方形の掘り込みは、河原石を積み上げ、モルタルで固めた簡易的な作りだった。しかし、簡易的な作りであったことから、包含層が少し残っており、崩れた壁面の内側からも遺物が検出された。調査区の南西側は、農地であり廃材を埋めるため大きな穴を掘った様子が見られた。

遺跡周辺は笛吹川の氾濫原であり、地表から約50cm～1m下からは、河川の氾濫のよって流されてきた大きな石が検出される状態であった。これらの石の上層に20～50cmの黒褐色土が堆積しており、多くの遺物が含まれていた。調査区の北側から南側、笛吹川に向かって緩やかに傾斜する地形であり、南に行くほど大きな石が増えしていく。4号トレンチの壁面には、ピット状の落ち込みが確認できたため、掘立柱状建物跡があると推定されたが、面的に遺構確認を行っても、明確な掘り込みは発見できなかった。そのため、東西南北方向にベルトを設定し、土層観察を行い、遺物の堆積を観察した。

第2項 遺物

中島遺跡では、遺物が出土したトレンチから調査範囲を決定した。調査の結果、調査面積は約540m²となり、ほぼ全体から遺物が出土し、部分的にまとまった出土状況を示していた。特に大きな破片が出土した箇所を、遺物集中とした。光波測量機による遺物の取り上げでは、遺物の点数は1,825点で、そのほとんどが土師器壊と甕の破片であった。ほぼ完形に近いものから、1cm四方の破片まで出土している。大きめの破片は、調査区北側に多く、南側は小さめのものが多い傾向にある。一括として取上げたものを含めると、タテ48cm、ヨコ34cm、深さ17cmのプラスチック箱が9つほどになった。また、調査区の東側では、大きな石の下に土師器小破片が砂質土と共に流れ込んだ状態の場所もあった。

出土した遺物には、製塙土器と「馬」の刻書がある土師器壊片があった。製塙土器は、D5とD6グリッドから出土した破片が接合されたものである。幅約4cm、長さ約8cmの大きさで、口縁部から体部までの破片である。粘土紐を積み上げ手捏ねしているため、指頭圧痕が残る。多くの遺物が甲斐型土器である中で、この土器は、黄色味かった薄橙色で、磨きや刷毛目による調整がなされていない特徴があった。外面は指の跡がそのまま残っているが、内面は撫でて器面を滑らかにしている。内面は二次的な熱を受けているため、剥離が激しい。

「馬」という文字は刻書であり、先端の尖った棒状の道具で書かれたものである。出土地点はC2グリッドである。文字は短辺1cm、長辺1.5cmほどの長方形の大きさで、楷書よりやや崩した感じがある。文字の書かれた器は、甲斐型土器の壊底部である。緻密な粘土をロクロ整形により引き上げ、内面・外側とも棒状の工具で何度も擦り、磨き上げたもので、胎土も緻密で焼き上がりもしっかりした出来の良いものである。底部外側は静止した糸を引きながら、ロクロから切り離したあと、ヘラで底部の外周を削っている。このような特徴から、8世紀後半代の年代を考えたい。この他の掲載遺物については、観察表に記載した。

第4節 下河原遺跡の遺構と遺物

第1項 遺構

調査面積約770m²で、発掘された遺構は堤防の基礎部分の石列である。調査区は市道を挟んで北側と南側に分かれており、北側調査区が岩手橋西詰交差点から20m程、甲府方面に向かった地点にある。現状では、甲州市から山梨市東地区に向けて、笛吹川にかかる岩手橋に合わせるように、八幡地点から登り坂となっている。八幡付近では道路と民家などはほぼ同じ標高であるが、岩手橋付近までにかなり比高差が生じる。国道140号は笛吹川に沿って併設されており、笛吹川の堤防の役割を担っている。

今回の調査で発見された堤防は調査区北側にあり、笛吹川に向かって直角よりやや北側へ傾きをもつ矢羽の羽のような位置にある。現状では、約7m幅で、7個の石列が確認できる。部分的に石が抜けている場所や、面が合わないこともあるが、残っている石の面を繋ぐと約7mとなる。幅50cm~1m程で、奥行き70cm程の平らな面を外側に向け並べられている。この石列は川裏と考えられ、川の水が直接ぶつかる川表は破壊されたと考える。しかし、北に約5mの幅に平らな面を持つ大きな石が残っており、この石を破壊された川表の残りと仮定すれば、基礎部分の幅は約5mほどではないかと想定される。

調査区南側では、明確な石列は確認できなかったが、北側の石列ほどの面を持つ石が数個あり、堤防の基礎の可能性も考えられる。堤防と堤防との間隔がどのくらいなのか不明であるが、もし、南側の石が堤防の残骸であるのであれば、約40mの間隔に設置されたと考えられる。

笛吹川の堤防は、まず本堤が設置され、これに隣接して横堤・前堤・羽衣堤などと呼ばれる枝状の堤防が作られる。これらは、川に向かって直角あるいは斜めに設けられた堤で、川の流速を減速させ、耕地を保護するための堤であり、これを「出し」または、「積石出し」と呼んでいる。今回発見された堤防は、笛吹川に対して直角よりやや北寄りの方向に伸びており、本堤ではなく、横堤・前堤・羽衣堤のいづれかに当たると考えられる。このため、発見された堤防は「出し」と呼ばれる部類の堤防で、氾濫による水の勢いを弱める役割であった。類似する例として、万力公園内に保存されている「雁行堤」がよく知られている。今回の調査では、遺物の出土が少なく、時期を限定することはできないが、近世以降と考えられる。

第2項 遺物

調査区区内からは、陶磁器片やガラス瓶などが数点発見されている。石列の直上まで厚い埋土に覆われており、深いゴミ穴もある。穴の中には、薬剤の瓶など廃棄されたものもあった。そのうち、石列とその周辺から検出された9点について実測・トレースを行い報告書の第16図に掲載した。1は磁器碗。口径12cm・器高4cmを測る。丸みを帯びて立ち上がる体部をもち、外面と口縁内側に文様がある。2は磁器碗。体部から高台接合部片。内外面に模様がある。3は磁器碗。体部から高台接合部片。内外面に模様がある。4は口径約12cm・器高3.4cmの磁器碗。5は口径11cm・器高3cmの磁器碗。6は底部径4.2cmの磁器碗。7は口径11.5cm・底部径7cm・器高2.4cmの磁器皿。8は口径約20cm・器高約2.8cm・底部径11.5cmの磁器皿。3と6がやや古手で、4・5コバルトの型紙での模様付けがなされている。全体の遺物は明治以降のものが大半であり、石列も川の氾濫で破壊されているため、石列がつくられた時期はわからなかった。

No.	図版	種別	時期	器種	法量(cm)			整形技法		色調		胎土	備考	
					口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面			
1	1	土師器	平安	壺	13.2	5.3	7.2	ヘラ削り		橙	燈		底部静止糸きり	
2	1	土師器	平安	壺	(12.2)	3.8	8.0			明赤褐	明赤褐	赤色粒子・金雲母	見込み部線刻・底部静止糸きり後ヘラ削り	
3	1	土師器	平安	壺	12.8	5.9	8.4			暗文	明赤褐	明赤褐	赤色粒子	底部静止糸きり後削り
4	1	土師器	平安	壺		残4.7	(7.0)	ヘラ削り	暗文	にぶい橙	にぶい橙	白色・赤色・黒色粒子	見込み部暗文・底部静止糸きり後ヘラ整形	
5	1	土師器	平安	壺	(13.5)	5.4	8.0	ヘラ削り	暗文	明赤褐	明赤褐	赤色粒子・金雲母	底部静止糸きり後ヘラ削り	
6	1	土師器	平安	壺	13.8	4.6	(9.0)			暗文	橙	橙	白色・赤色・黒色粒子	見込み部線刻・底部静止糸きり後ヘラ整形
7	1	土師器	平安	壺	(10.9)	4.5	(7.0)	ヘラ削り	暗文	にぶい褐	明褐	白色・赤色・黒色粒子・金雲母	見込み部暗文	
8	1	土師器	平安	壺	(12.8)	残4.0		ヘラナデ・削り	暗文	明褐	にぶい褐	白色・赤色粒子		
9	1	土師器	平安	壺	(10.0)	4.1	(6.0)		暗文	にぶい赤褐	灰褐	赤色粒子		
10	1	土師器	平安	壺	(12.0)	残4.5			暗文	にぶい褐	にぶい褐	赤色粒子		
11	1	土師器	平安	壺	(10.8)	残3.7		ヘラ削り		明褐	明赤褐	赤色粒子・金雲母		
12	2	土師器	平安	壺		残3.2	7.2		暗文	にぶい赤褐	にぶい褐	赤色粒子・金雲母	底部静止糸きり後削り	
13	2	土師器	平安	壺		残2.9	(7.3)	ヘラ削り	暗文	明褐色	明褐色	白色・赤色・黒色粒子・金雲母	底部静止糸きり後ヘラ削り	
14	2	土師器	平安	壺		残3.1	(6.8)	ヘラ削り	暗文	にぶい橙	にぶい橙	赤色粒子	見込み部暗文・底部ミガキ	
15	2	土師器	平安	壺		残2.6	(7.4)		暗文	にぶい褐	橙	赤色粒子	見込み部暗文	
16	2	土師器	平安	壺		残1.7	(8.0)		暗文	橙	橙	赤色粒子	見込み部暗文・底部静止糸きり後ヘラ整形	
17	2	土師器	平安	壺		残2.1	6.6		暗文	にぶい褐	明赤褐	赤色粒子		
18	2	土師器	平安	壺						にぶい黄褐	橙	赤色粒子	見込み部暗文・底部刻書「馬」	
19	2	土師器	平安	壺		残3.0	(6.0)	ヘラ削り		にぶい赤褐	にぶい赤褐	赤色粒子	底部静止糸きり後削り	
20	2	土師器	平安	壺		残2.0	4.8	ヘラ削り	暗文	にぶい黄褐	にぶい黄褐	赤色・黒色粒子	見込み部溝答状の沈線・底部回転糸きり痕	
21	2	土師器	平安	壺		残3.8	4.0		暗文	にぶい褐	にぶい赤褐	赤色粒子・金雲母		
22	2	土師器	平安	蓋	(15.0)	残2.8		暗文	暗文	にぶい赤褐	明赤褐	赤色粒子		
23	2	土師器	平安	蓋		1.8	2.7			明黄褐	橙	赤色・黒色粒子		
24	3	土師器	平安	甕	(38.6)	24.6	(8.6)	ハケ目	ヨコハケ	黒褐	赤褐	白色・黒色粒子・金雲母	輪積痕	
25	3	土師器	平安	甕		残16.2		ハケ目	ヨコハケ	にぶい赤褐	極暗褐	赤色粒子・金雲母		
26	3	土師器	平安	甕	(23.0)	残8.4		ハケ目	ヨコハケ	褐灰	黒褐	白色・赤色・黒色粒子・金雲母	輪積痕	
27	4	土師器	平安	甕	(38.0)	残14.4		ハケ目	ヨコハケ	にぶい赤褐	褐	黒色粒子・金雲母		
28	4	土師器	平安	甕		残20.9	9.0	ハケ目	ヨコハケ	黒褐	褐灰	白色粒子・金雲母	底部木葉痕	
29	4	土師器	平安	甕	(13.2)	残3.1		ハケ目	ヨコハケ	褐	にぶい褐	白色粒子・金雲母		
30	4	土師器	平安	甕		残2.7		ハケ目	ヨコハケ	にぶい赤褐	暗赤褐	白色粒子・金雲母		
31	4	土師器	平安	甕?		残5.6		ハケ目	ヨコハケ	褐	灰黄褐	白色・赤色・黒色粒子・金雲母		
32	4	土師器	平安	甕?		残4.8		ハケ目	ヨコハケ	にぶい褐	にぶい褐	白色粒子		
33	4	土師器	平安	羽釜	(29.0)	残4.0		ハケ目	タテハケ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	白色粒子・金雲母		
34	4	土師器	平安	置きかまど		残8.2	(30.0)			褐灰	灰褐	赤色粒子・金雲母		
35	5	土師器	平安	かまど?		7.6				褐	灰褐	白色・黒色粒子・金雲母		
36	5	土師器	平安	甕		残2.6	(9.0)	ハケ目		にぶい褐	にぶい褐	白色・黒色粒子・金雲母		
37	5	土師器	平安	甕		残2.6	7.2			にぶい橙	にぶい橙	白色・赤色・黒色粒子・金雲母		
38	5	土師器	平安	甕		残7.5		指頭圧痕		にぶい黄褐	にぶい黄褐	白色・黒色粒子・金雲母	手すくね・製塙土器	
39	5	須恵器	平安	壺	(12.0)	残3.5				灰黄	黄灰	白色粒子・金雲母		
40	5	須恵器	平安	壺	(11.8)	残3.8				灰オーリーブ	灰	白色・黒色粒子		
41	5	須恵器	平安	壺	(11.8)	残3.5				灰	灰	白色粒子・金雲母		
42	5	須恵器	平安	壺		残1.4	5.8			灰オーリーブ	灰オーリーブ	白色粒子	底部回転糸きり痕	
43	5	須恵器	平安	蓋	14.0	残1.2				灰黄	灰黄	白色・黒色粒子・金雲母		
44	5	須恵器	平安	壺?		残5.0				灰	灰	白色粒子		
45	5	弥生土器	弥生	甕		残5.1				にぶい黄褐	にぶい褐	白色・黒色粒子	外面刺突・沈線・縹文	
46	5	弥生土器	弥生	甕		残2.2				にぶい褐	にぶい褐	白色粒子	外面縹文	
47	5	弥生土器	弥生	甕		残2.6				にぶい褐	明褐	白色粒子	外面沈線・縹文	
48	5	弥生土器	弥生	甕?		残3.1				にぶい褐	にぶい褐	白色粒子・粒子	外面沈線・口唇部に縹文の刻み	
49	5	土製品	近代							明褐	明褐	白色粒子・金雲母	甲府酒折工場	
50	5	土製品		コマ	3.0	1.5				にぶい橙		赤色粒子		
51	5	磁器	近世	碗	(9.0)	残4.3								
52	5	磁器	近世	皿		残2.5								
53	5	銅製品		古錢										

第2表 出土遺物一覧表

第4章　まとめ

第1節　中島遺跡について

中島遺跡では、「馬」の文字を刻書した土師器底部の破片と製塩土器と言われる薄手の手捏ね土器の破片が発見されている。遺物が出土した地点周辺を含め、遺跡全体で遺構は見つかっていない。しかし、遺物包含層から発見されたこれらの資料は、発見例の少ない貴重なものであるため、その重要性について触れておきたい。

山梨県は古くから馬と関りが深く、日本書紀の雄略天皇時代や聖徳太子の逸話などに記された黒駒伝承からも広く知られるところである。また、律令下においては、県内に三ヶ所の勅使牧が置かれるなど、馬の一大生産地であったことがわかる。勅使牧は奈良時後期に設定されたと考えられている、地方から中央へ貢馬する馬を飼育するための牧場である。県内のこの時期の牧や馬に関する資料については、真衣野牧の推定地である北杜市牧の原で調査された宮間田遺跡から、「牧」の字が墨書された須恵器坏片と「馬」という文字が鏡文字で書かれた土師器坏が発見されている。また、少し新しい時期には、市川三郷町上野原遺跡の土師器蓋の内側に刻まれた馬の絵(後脚と尾のみ) や笛吹市狐原遺跡の午の字を丸で囲んだ墨書のある土師器4点などがある。このような資料が出土する遺跡は、牧や古代官衙に関連することが多いとの指摘があり、中島遺跡の存在が注目される。山梨市域の馬に関連する資料については、山梨県史編纂段階で収集した山梨市内の墨書・刻書土器に、それ以降の出土資料を加えた一覧表を作成した。その結果、山梨市内には「馬」に関する資料は、現段階では確認できていない。^{注1}

ここで、もう一つの出土品である製塩土器について触れる。製塩土器は、文字通り塩に関係する土器であるが、どの遺跡からも普通に出土するものではない。ここでいう製塩土器は、あらかじめ作製した粗塩状態の塩をさらに焼き締めたりする小さな容器を想定している。県内の製塩土器の出土状況を見てみると、甲府盆地西部の富士川およびその上流域の釜無川、その支流である塩川流域を中心とする南アルプス市および韮崎市域に濃厚な分布域があるが、甲府盆地東部の笛吹川流域・富士河口湖町域では散在的、八ヶ岳南麓域・桂川流域の山梨県東部地域では確認されていない。^{注2} 出土状況が濃厚な南アルプス市には巨麻郡大井郷と推定される鋳物師屋遺跡群(鋳物師屋遺跡・メ木遺跡)、8世紀から9世紀にかけて須恵器生産に関わる野牛島・西ノ久保遺跡、韮崎市域では巨麻郡の郡家および各種手工業に関連する宮ノ前遺跡・宮ノ前第5遺跡などがある。これらの遺跡では竪穴建物跡などの遺構・カマド等から数多く出土する例が見られる。鋳物師屋遺跡群では、カマドの造り変えが比較的多い事などを総合的に検証して、カマドで焼塩を作っていたのではないかと考えられている。製塩土器が濃厚に出土する地域では、出土量の多さから塩を生産する側とも考えられるが、中島遺跡のような出土点数が1つくらいの散在的な甲府盆地東部地域では、塩を消費する側として考えるのが自然である。しかし、古代から塩はとても貴重なもので、人間以外に貴重な塩を使うのは、朝廷に献上する馬、あるいは荷を運ぶ馬などではないだろうか。馬も人間同様、健康を維持するためには塩分が必要である。遺跡の所在する岩手地域は、隣接する八幡地区と笛吹川対岸の日下部地域を含み、古代甲斐国の山梨郡加美郷と考えられており、朝廷にたくさんの献上品を出す地域であった。郷は数件を単位とした集落が集まつたものと考えられるため、中島遺跡もこのような集落の一つだったと考えられる。

中島遺跡から「馬」という文字や製塩土器が発見されたことは、単なる偶然ではなく、この地には、「馬」という文字を土器に刻むような建物や場所が存在し、その仕事に関わる人々が住み、貴重な塩を手にする生活があったと言える。しかし、水害により建物などは流され、遺物だけが残ることになってしまった。そんな、自然の猛威が想像できる。

第2節　下河原遺跡について

下河原遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地として知られていたが、その詳細については分かっていなかった。平成7年～9年度に文化庁の補助金を受けて分布調査された『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』でも、山梨市域の堤防は八幡橋までしか確認されていなかった。そのため、八幡橋より上流で堤防の基底部が発見されたことは、とても重要な発見となった。当初は、包蔵地の中に積まれていた石垣が堤防の一部と考えられていたが、

調査の結果、遺跡の北東端の地表下3mから近世以降と思われる堤防跡が発見された。今回、発見された堤防跡は、石列のみで7個の石が平らな面を一列に面をそろえて並び、幅は調査区の幅約7mが確認されている。本来は、これらの石が基底部となり、その上に石が積まれる構造であったと考える。山梨市万力地域には、現存する堤防が保存されている。雁行堤は山梨市史編纂事業に伴って平成14年12月に規模確認調査が実施された結果、法面の石積みの高さは川表側で2.8m・川裏側で3mと確認された。法面には主として60cm~1mほどの無加工の川原石が積まれ、隙間には人頭大の石が組み込まれていた。石積みの最下部には胴木は確認されていない。当遺跡の石列の最下段でも胴木は確認できなかった。周辺から木材の破片は数点確認されたが、これが石積みに関するかどうかの判断はできない。雁行堤は、県内に残された石堤の中では例のない特徴を持つという。

残念ながら、発見された石列には上部溝造が残っておらず、この特徴を示すことは出来ない。しかし、周辺には、大型の石がたくさんあり、石積みに使われた可能性もあり得る。

下河原遺跡の石列は、旧山梨市域では最北端で発見された堤防跡となった。又、現地表面から地表下約3mという深さであった事から、今後の笛吹川添いの堤防跡調査においては、新しい情報を示すことが出来たと考える。

注1 中島遺跡周辺で報告書が刊行されているものから集成したため、山梨市域全体は反映していない。

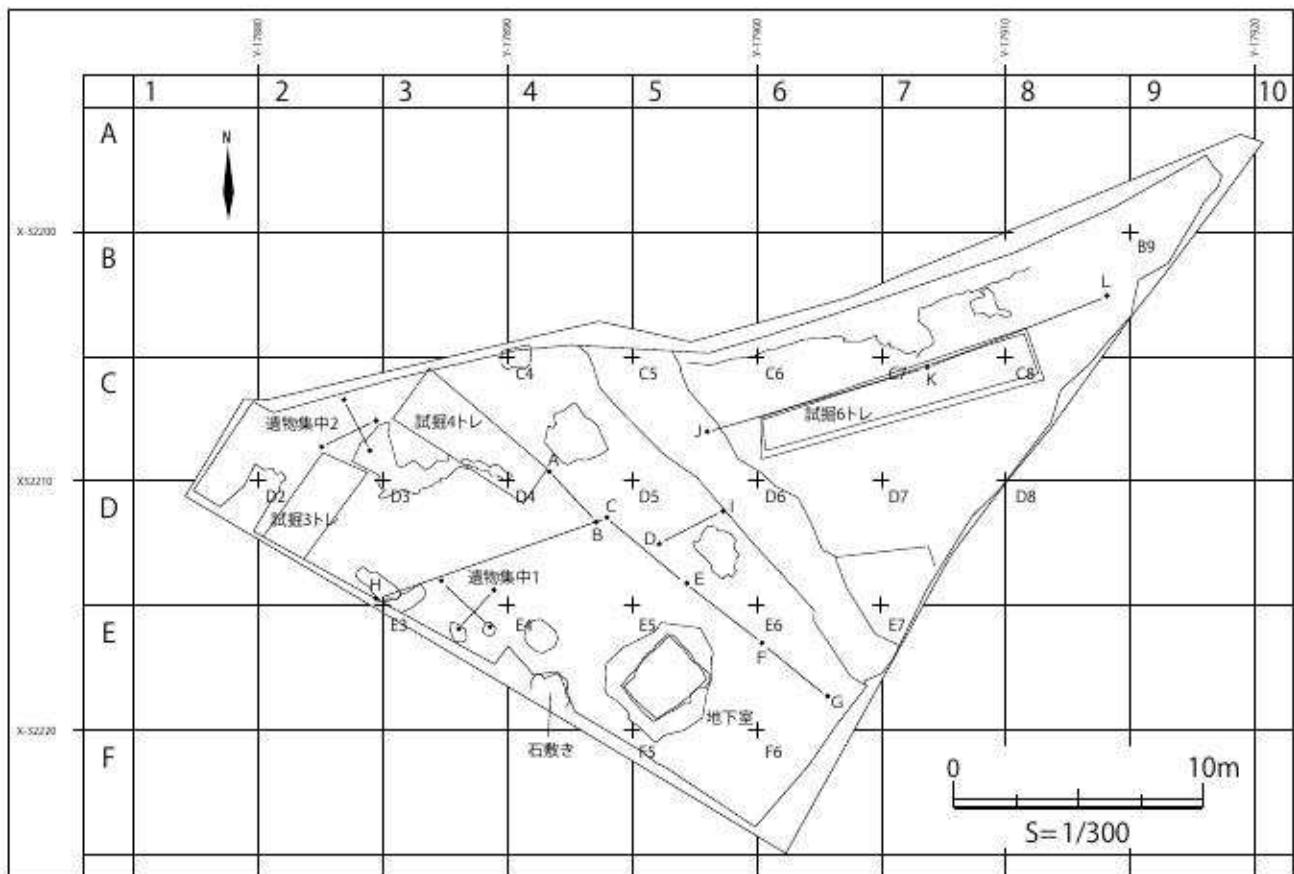
注2 2015年以降の出土資料は未確認である。

参考文献

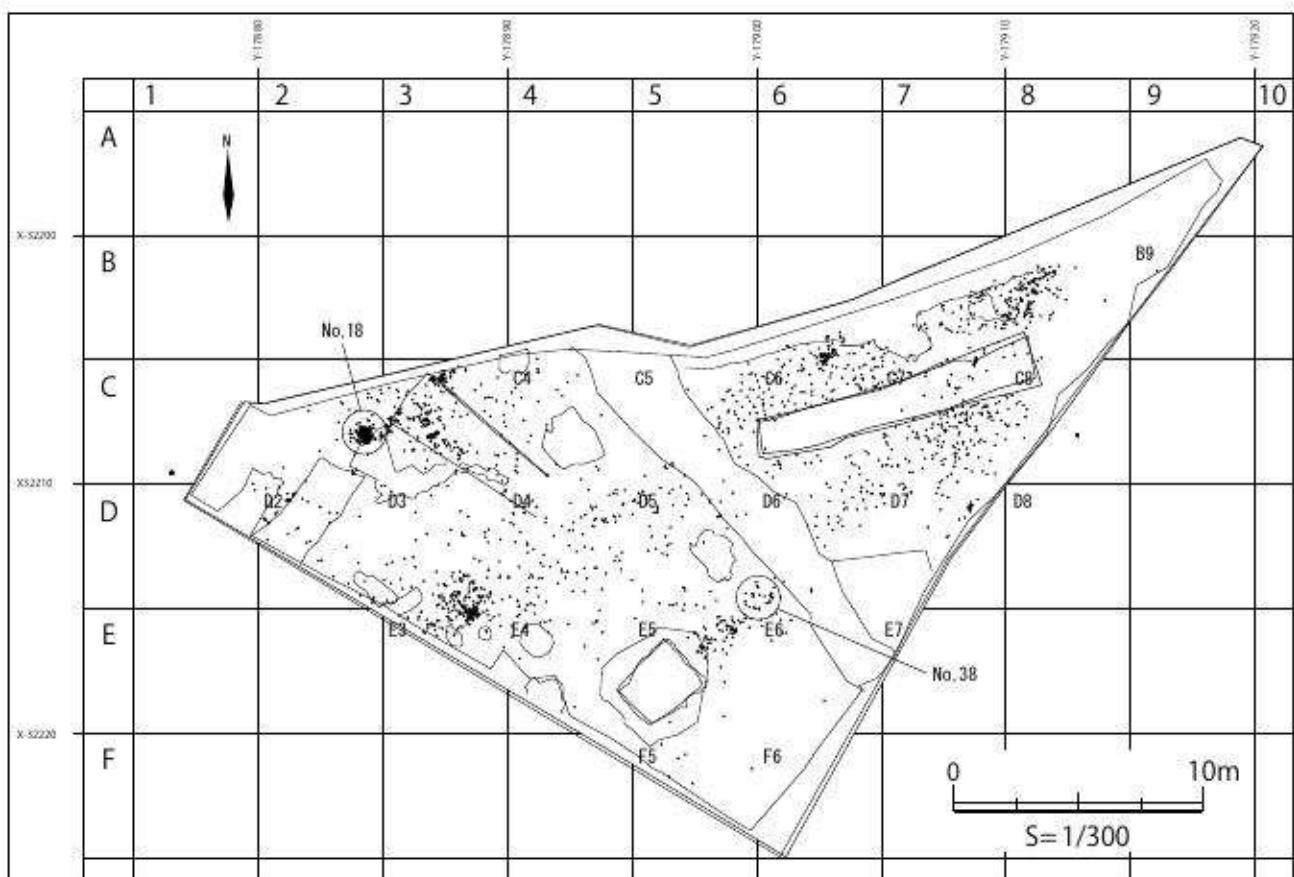
- 1.『山梨県史 資料編3 原始・古代3』 山梨県 平成13年2月15日発行
- 2.「山梨県富士河口湖町淹沢遺跡出土の古代製塩土器」平野修・御山亮済 『研究紀要31』2015 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 3.『宮ノ前遺跡』 山梨市文化財調査報告書 第3集 平成7年3月 山梨市教育委員会
- 4.『東後屋敷遺跡』 山梨市文化財調査報告書 第4集 平成7年3月 山梨市教育委員会・山梨市遺跡調査会・朝日商事有限会社
- 5.『高畠遺跡－JAフルーツ山梨加納岩統一共選所建設に伴う発掘調査報告書－』 山梨市文化財調査報告書 第8集 2005年3月 JAフルーツ山梨・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所
- 6.『延命寺遺跡－山梨厚生病院授産施設建設に伴う発掘調査報告書－』 山梨市文化財調査報告書 第9集 2005年3月 (財)山梨厚生会山梨厚生病院・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所
- 7.『三ヶ所遺跡－市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書－』 山梨市文化財調査報告書 第12集 2010年1月 山梨市・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所
- 8.『三ヶ所遺跡(第3次調査地点)－市道小原東東後屋敷線改良に伴う発掘調査報告書－』 山梨市文化財調査報告書 第15集 2012年3月 山梨市・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所
- 9.『間之田東遺跡－市道落合聖德寺線改良に伴う発掘調査報告書－』 山梨市文化財調査報告書 第19集 2014年3月 山梨市・山梨市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所
- 10.『江曾原遺跡－八幡地区農道整備事業に伴う発掘調査報告書－』 山梨市文化財調査報告書 第25集 2016年3月 山梨県峠東農務事務所・山梨市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所
- 11.「第6章 律令体制と牧・寺院 3牧と馬」『山梨県史 資料編2 原始・古代2』 山梨県 平成11年3月23日発行 山梨県
- 12.『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第152集
1998.3 山梨県教育委員会

番号	通跡名	転文	種別	場所	容積	記録部位	方向	時期	遺構
1 - 1	江曾原通跡	米	墨書	土跡路	环	底外		9~10c	住
2 - 2	江曾原通跡	玉	墨書	土跡路	环	体外		9~10c	住
3 - 1	日下前通跡(1・2次)	玉	墨書	土跡路	环	体外	倒位方	10c	1往
4 - 2	日下前通跡(1・2次)	南	墨書	土跡路	田	体外	正位	10c	1往
5 - 3	日下前通跡(1・2次)	真	墨書	土跡路	环	体外	正位	10c	1往
6 - 4	日下前通跡(1・2次)	玉	墨書	土跡路	田	体外	倒位方	10c	1往
7 - 5	日下前通跡(1・2次)	玉	縦斜	土跡路	田	体外	正位	10c	1往
8 - 6	日下前通跡(1・2次)	口	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
9 - 7	日下前通跡(1・2次)	玉	墨書	土跡路	环	体外	倒位方	10c	2往
10 - 8	日下前通跡(1・2次)	□(東方葉方)	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
11 - 9	日下前通跡(1・2次)	□(南方)	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
12 - 10	日下前通跡(1・2次)	南	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
13 - 11	日下前通跡(1・2次)	□(田か)	墨書	土跡路	田	体外	正位	10c	2往
14 - 12	日下前通跡(1・2次)	□(玉か)	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
15 - 13	日下前通跡(1・2次)	玉	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
16 - 14	日下前通跡(1・2次)	玉	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
17 - 15	日下前通跡(1・2次)	口	墨書	土跡路	环	体外		10c	2往
18 - 16	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外	倒位方	10c	2往
19 - 17	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外	倒位方	10c	2往
20 - 18	日下前通跡(1・2次)	□(大か)	墨書	土跡路	田	体外	正位	10c	2往
21 - 19	日下前通跡(1・2次)	田	墨書	土跡路	环	体外	正位	10c	2往
22 - 20	日下前通跡(1・2次)	玉	墨書	土跡路	环	体外	横位	10c	3往
23 - 21	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外	倒位	10c	3往
24 - 22	日下前通跡(1・2次)	□(玉か)	墨書	土跡路	环	体外		10c	3往
25 - 23	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外	倒位	10c	3往
26 - 24	日下前通跡(1・2次)	□(玉か)	墨書	土跡路	环	体外		10c	3往
27 - 25	日下前通跡(1・2次)	□(玉か)	墨書	土跡路	田	体外	倒位方	10c	3往
28 - 26	日下前通跡(1・2次)	□(藤か)	墨書	土跡路	环	体外		10c	3往
29 - 27	日下前通跡(1・2次)	丸	墨書	土跡路	环	体外	倒位	10c	3往
30 - 28	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	田	体外	横位	10c	3往
31 - 29	日下前通跡(1・2次)	□(墨漬淡による重ね書き)	墨書	土跡路	环	体外		10c	3往
32 - 30	日下前通跡(1・2次)	墨書	土跡路	环	体外	正位		10c	4往
33 - 31	日下前通跡(1・2次)	□	墨書	土跡路	环	体外		10c	4往
34 - 32	日下前通跡(1・2次)	裏	墨書	土跡路	环	体外	正位	10c	4往
35 - 33	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外		10c	4往
36 - 34	日下前通跡(1・2次)	□(平か)	墨書	土跡路	环	体外		9c	7往
37 - 35	日下前通跡(1・2次)	□(冬カ禁カ)	墨書	土跡路	田	体外		10c	9往
38 - 36	日下前通跡(1・2次)	真	墨書	土跡路	环	体外	倒位	10c	11往
39 - 37	日下前通跡(1・2次)	南	墨書	土跡路	环	体外	倒位	10c	11往
40 - 38	日下前通跡(1・2次)	□	墨書	土跡路	环	体外		10c	13往
41 - 39	日下前通跡(1・2次)	□	墨書	土跡路	环	体外		10c	13往
42 - 40	日下前通跡(1・2次)	□(玉か)	墨書	土跡路	环	体外		10c	13往
43 - 41	日下前通跡(1・2次)	□	墨書	土跡路	环	体外		10c	13往
44 - 42	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外		10c	14往
45 - 43	日下前通跡(1・2次)	□	墨書	土跡路	环	体外		10c	14往
46 - 44	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外		10c	14往
47 - 45	日下前通跡(1・2次)	田	墨書	土跡路	环	体外	正位	9c~10c	17往
48 - 46	日下前通跡(1・2次)	田	墨書	土跡路	环	体外	正位	10c	17往
49 - 47	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外	横位	10c	17往
50 - 48	日下前通跡(1・2次)	八九	墨書	土跡路	环	体外		9c	20往
51 - 49	日下前通跡(1・2次)	内	墨書	土跡路	田	体外		10c	通轍外
52 - 50	日下前通跡(1・2次)	王	墨書	土跡路	环	体外	倒位	10c	通轍外
53 - 51	日下前通跡(3・4次)	史国	墨書	土跡路	环	体外	横位	10c	1往
54 - 52	日下前通跡(3・4次)	人	縦斜	土跡路	环	体外		9c	2往
55 - 53	日下前通跡(3・4次)	□(王か)	墨書	土跡路	环	体外		9c	4往
56 - 54	日下前通跡(3・4次)	□	墨書	土跡路	环	体外		10c	4往
57 - 55	日下前通跡(3・4次)	新井	墨書	土跡路	环	体外	倒位	10c	5往~6往
58 - 56	日下前通跡(3・4次)	□	縦斜	土跡路	环	体外	倒位	10c	5往~6往
59 - 57	日下前通跡(3・4次)	王	墨書	土跡路	环	体外		9c	7往
60 - 58	日下前通跡(3・4次)	王	墨書	土跡路	环	体外		10c	8往
61 - 59	日下前通跡(3・4次)	五	墨書	土跡路	环	体外	正位	10c	8往
62 - 60	日下前通跡(3・4次)	□(全口か音カ)	墨書	土跡路	环	体外		10c	8往
63 - 61	日下前通跡(3・4次)	□(玉か)	墨書	土跡路	环	体外		10c	9往
64 - 62	日下前通跡(3・4次)	□	墨書	土跡路	环	体外		10c	9往
65 - 63	日下前通跡(3・4次)	文	ヘラ書	土跡路	环	体外		9c	満
66 - 64	日下前通跡(3・4次)	上□(透か)	縦斜	土跡路	环	体外		9c	9往
67 - 61	久保田通跡	國(圓か)	墨書	土跡路	环	体外	倒位方	10c	
68 - 1	七日子通跡	王	墨書	土跡路	环	体外		10c	通轍外
69 - 2	七日子通跡	王	墨書	土跡路	环	体外		10c	通轍外
70 - 3	七日子通跡	▽	縦斜	土跡路	环	体外	正位	10c	4往
71 - 4	七日子通跡	(波引和)	縦斜	土跡路	环	体外	正位	10c	
72 - 1	宮ノ前第3集	難?	墨書	土跡路	环	体外		9C 第2	一括
73 - 1	東後星戻第4集	御カ	墨書	土跡路	田	体外	正位	9c 後半が10c 前半	1号住
74 - 2	"	安カ	墨書	土跡路	环	体外	正位	9c 後半が10c 前半	2号住
75 - 3	"	七	墨書	土跡路	环	体外	正位	9c 後半が10c 前半	2号住
76 - 4	"	□	墨書	土跡路	环	体外		9c 後半が10c 前半	2号住
77 - 5	"	持	墨書	土跡路	环	体外	延位	記載なし	□ 遺構外
78 - 1	高塚第8集	大	墨書	土跡路	环	体外		10c 後半	2号壁穴
79 - 2	"	□	墨書	土跡路	环	体外		10c 後半	2号壁穴
80 - 3	"	五五五五	墨書	土跡路	田	体外	正位	10c 後半	8号壁穴
81 - 4	"	愚者? 和清	墨書	土跡路	田	体外		10c 前半	9号壁穴
82 - 5	"	□	墨書	土跡路	环	体外		10c 前半	9号壁穴
83 - 6	"	田?	墨書	土跡路	环	体外			1号坑土
84 - 7	"	安	墨書	土跡路	环	体外			通轍外
85 - 8	"	□	墨書	土跡路	环	体外			通轍外
86 - 9	"	□	墨書	土跡路	环	体外			通轍外
87 - 10	"	万カ	墨書	土跡路	环	体外			通轍外
88 - 1	誕命寺9集	四カ	刻書	土跡路	环	体外		9c 前半	2号壁穴
89 - 1	三ヶ所第12集	東大	墨書	土跡路	环	体外	正位	9c 東~10c 1西	1号壁穴
90 - 2	三ヶ所第15集3次	毫毛	刻書	高台	环	体外	正位		3号壁穴
91 - 3	三ヶ所第15集3次	長	墨書	土跡路	田	体外			通轍外
92 - 1	間之田塚第19集	ススカモ	墨書?	土跡路	环	体外			1号住
93 - 2	間之田塚第19集	□	墨書	土跡路	田	体外			1溝
94 - 1	江曾原第25集	□	刻書?	土跡路	环	体外			16溝

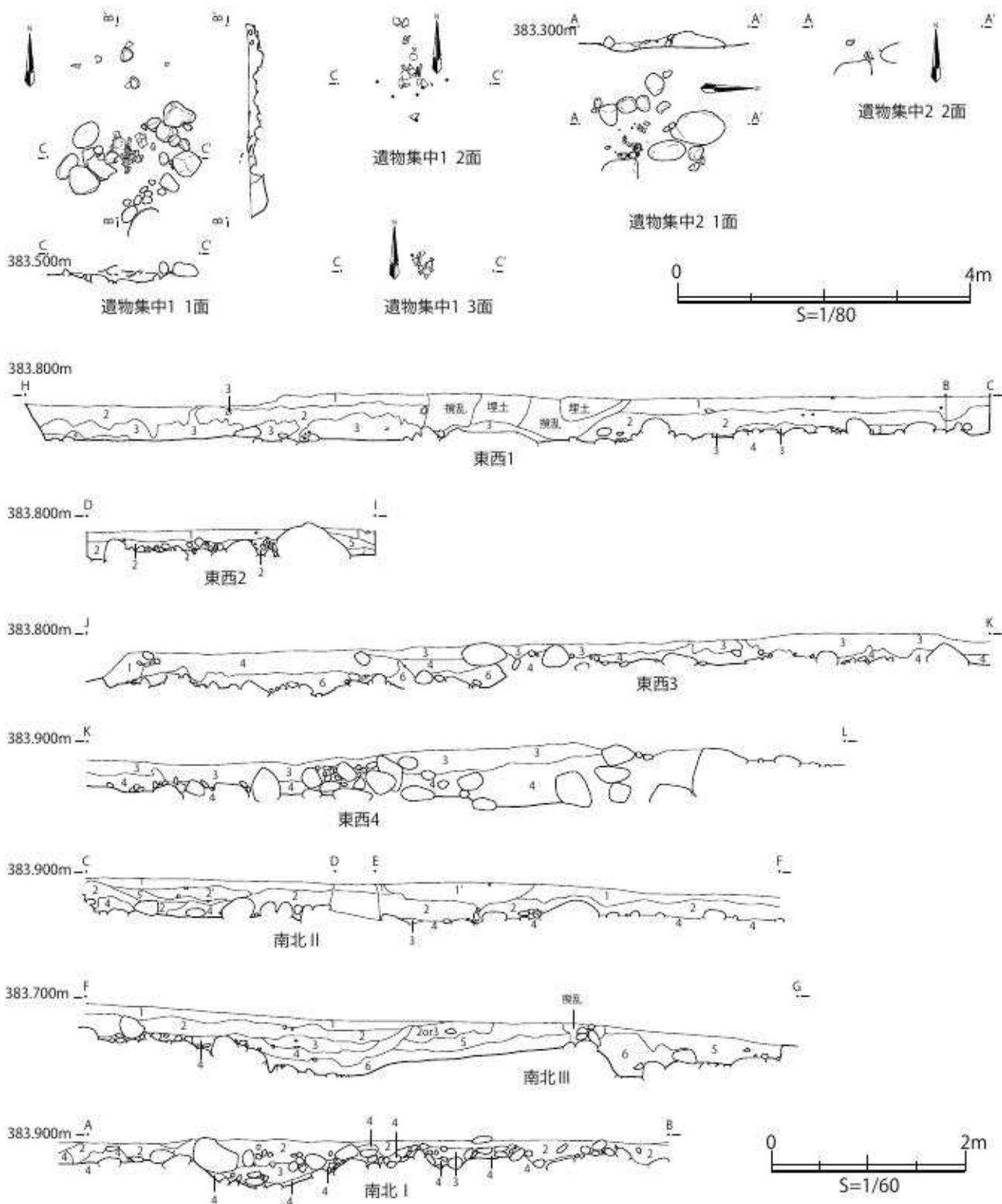
第3表 山梨市内の墨書一覧表



第6図 中島遺跡 全体図

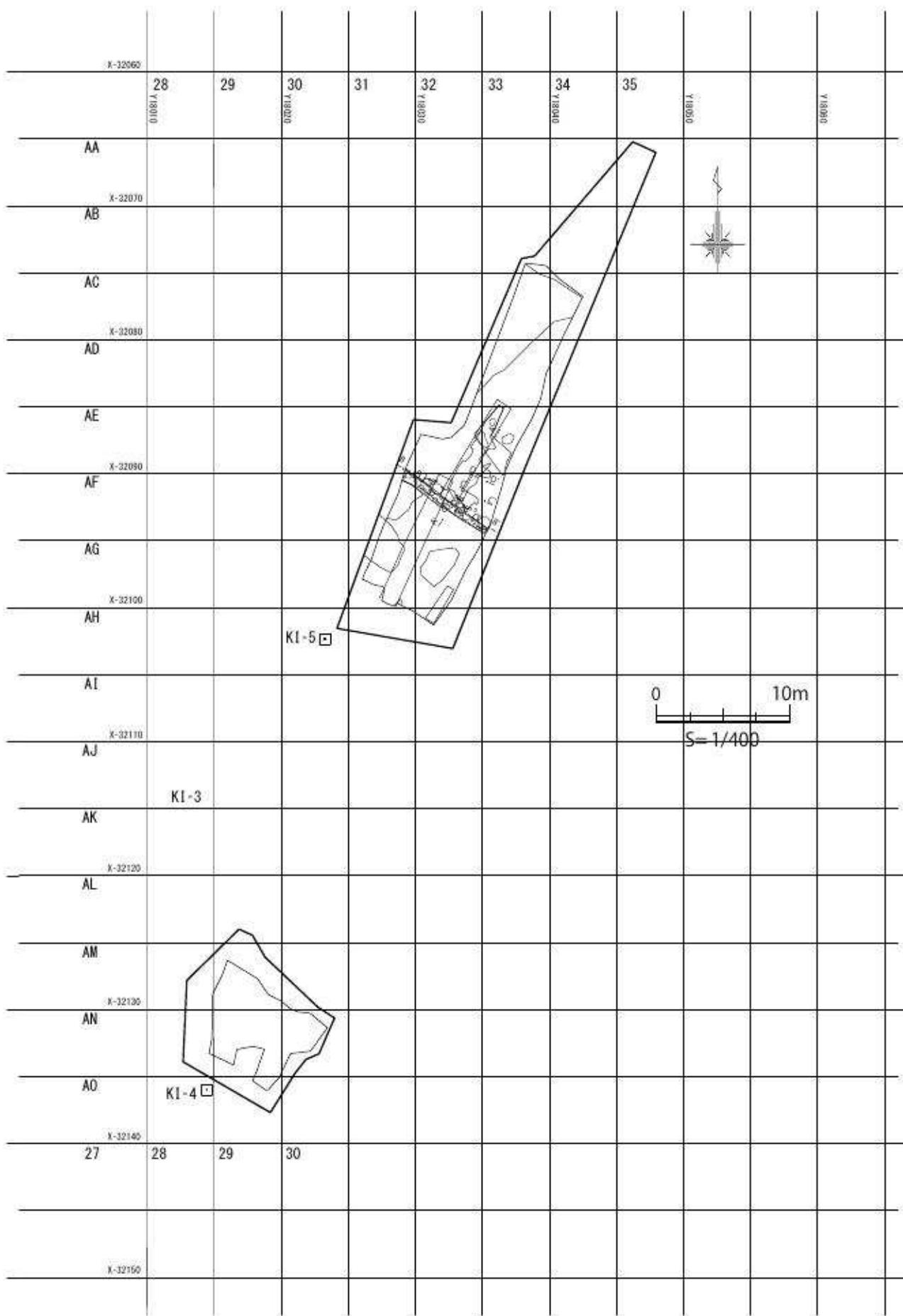


第7図 中島遺跡遺物(ドット図) 1/300

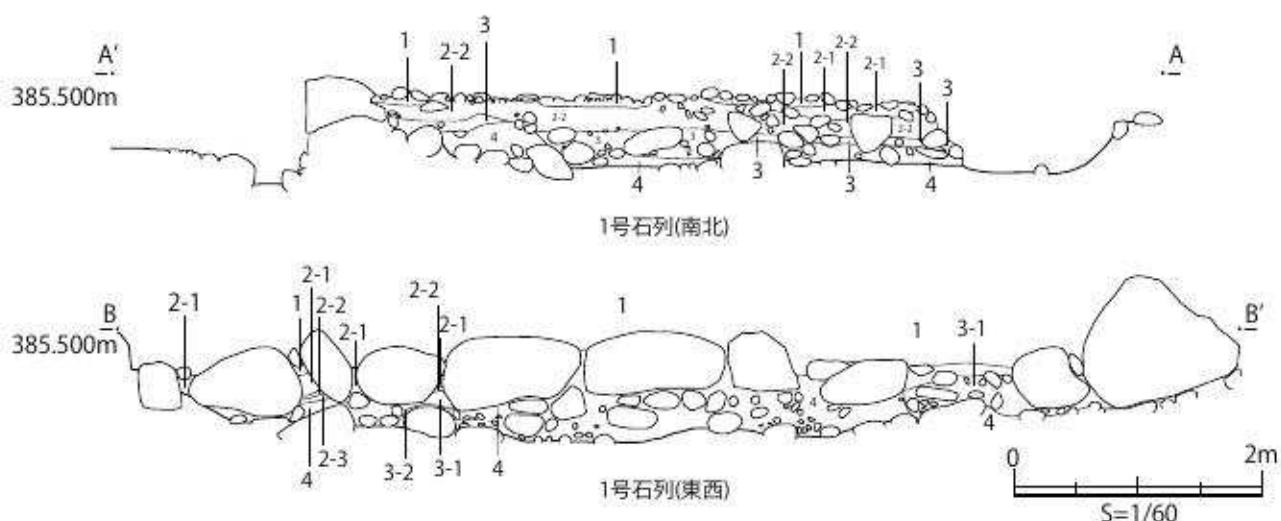
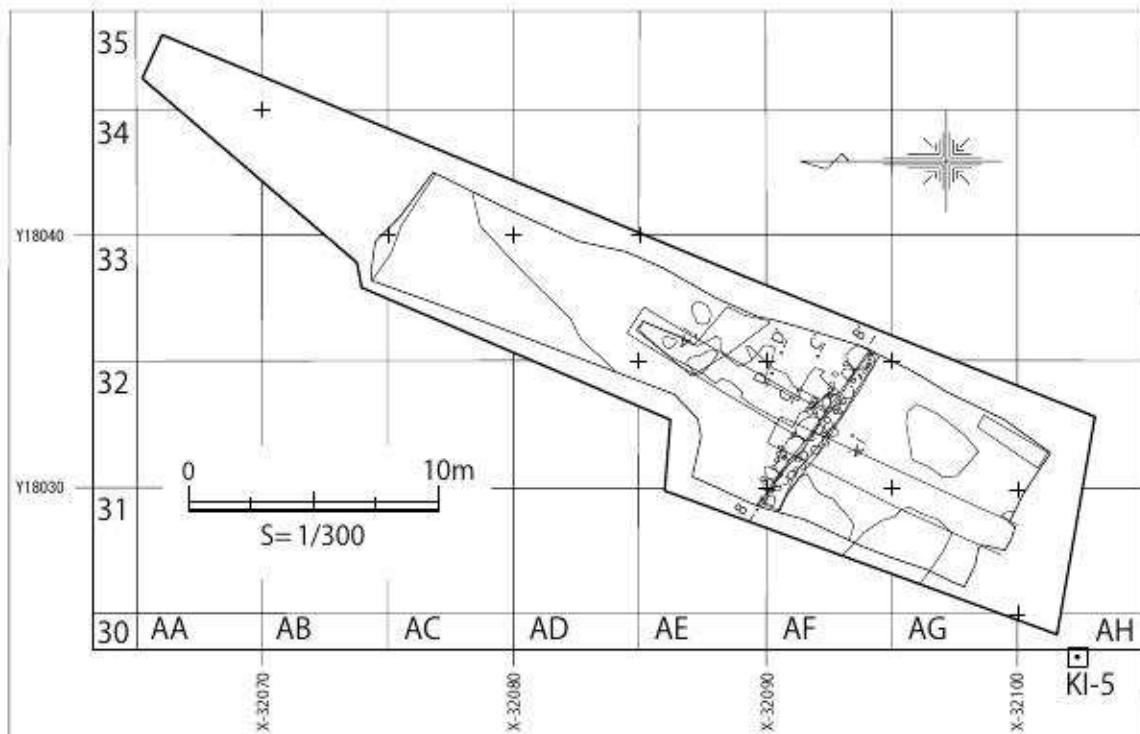


- 1層 細褐色土 (10YR3/3) 繊り欠け、粘性なし、Φ2~3mmの砂粒1%含む、Φ1mmの赤褐色粒子1%以下
 1'層 細褐色土 (10YR3/3) 繊り欠け、粘性なし、Φ2~3mmの赤褐色土 10%以上混ざるため、1層より明るく感じる
 2層 黒褐色土 (10YR3/2) 繊り欠け、粘性なし、Φ5mmの小石 5%含む (遺物包含層)、炭化物1%以下含む、下層の方ではΦ3cmくらいの石がはいる
 2'層 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物2%、赤褐色粒子を1%含む、ほぼ2層と同じ
 3層 黒褐色土 (10YR3/2) 繊りややあり、粘性なし、Φ2~3cmくらいの石、Φ7~10cmくらいの礫が混ざる。2層より石が多く入る
 4層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 繊りなし、粘性なし、砂層、Φ1~2cmの石入るが、多くはΦ10cm以上の礫がぎっしり入る。河床か？この層にも少し遺物が入るが、2層で検出されるものより、大きさは小さめ、焼耗している
 5層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土がブロック状に入る。やや粘性のある層
 6層 黒褐色土 砂質土、繊り欠け、粘性なし、Φ1~2cmの小石を含む、根が這っている。上層の褐色砂層をブロック状に含む現象。2%くらい粘質っぽい (灰かも) Φ1cmくらいのブロック含む

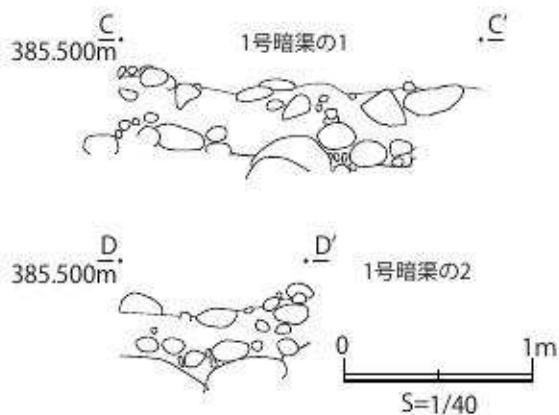
第8図 中島遺跡遺物出土状況 調査区断面図



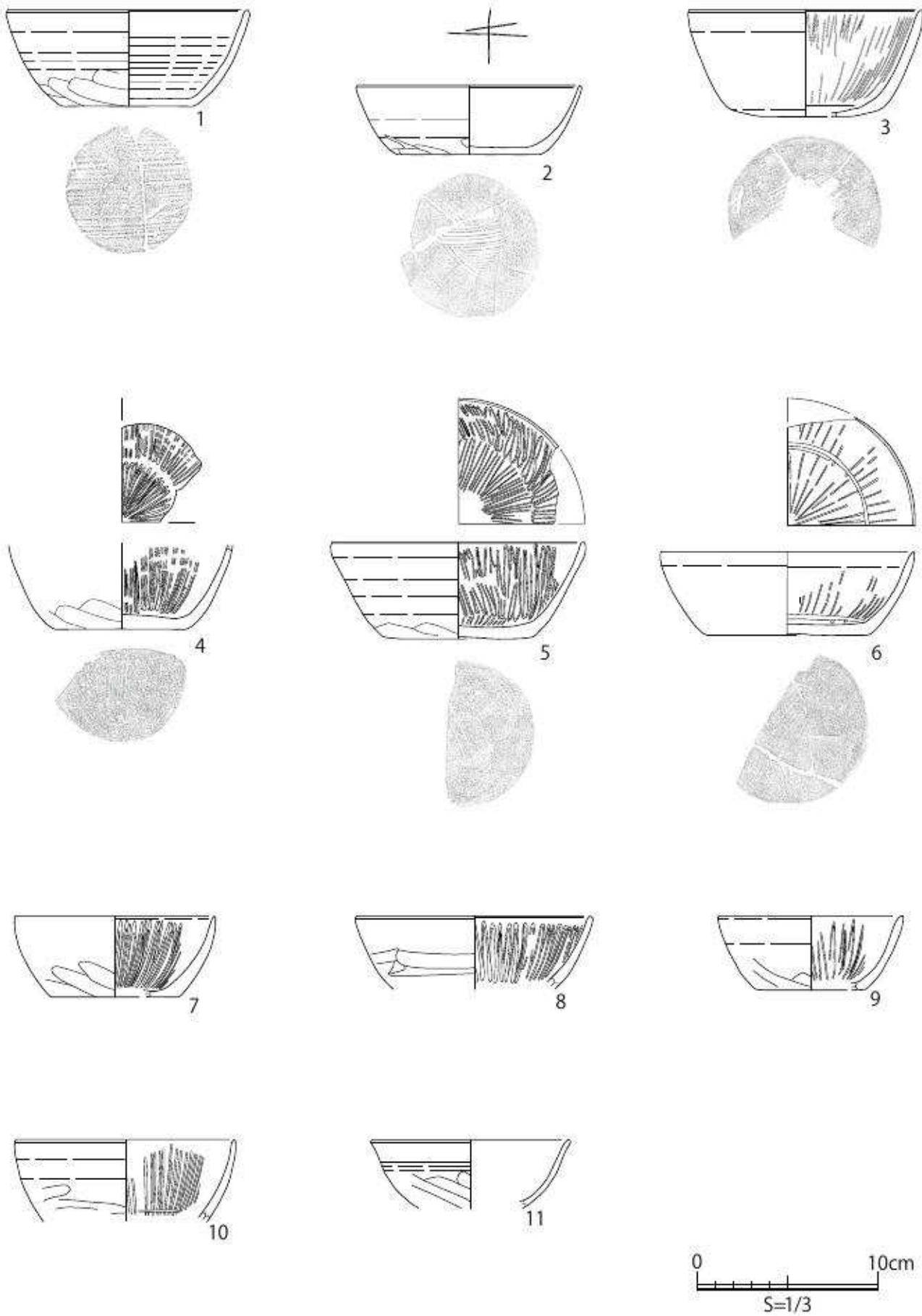
第9図 下河原遺跡 全体図



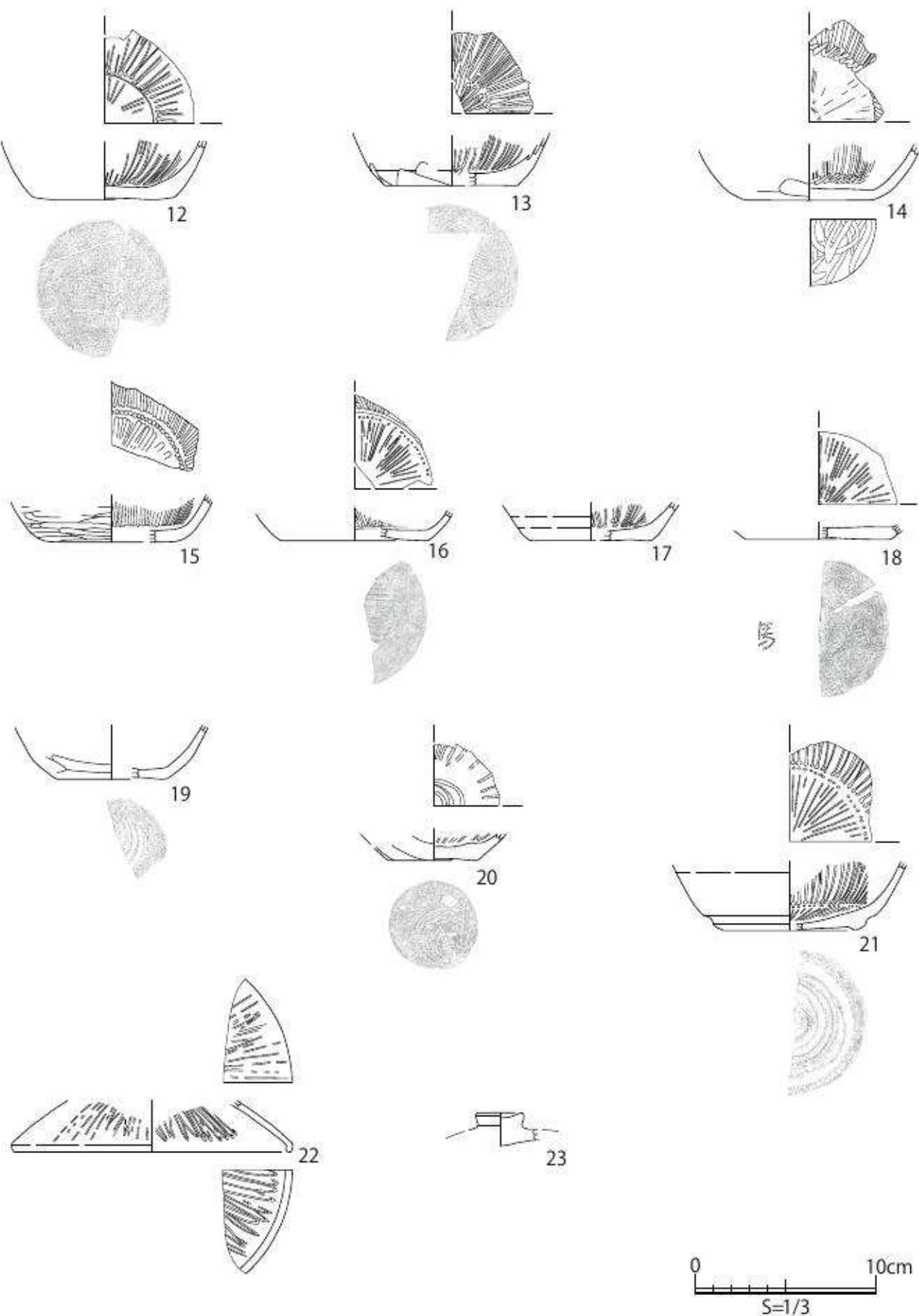
- 1層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂質、粘性、繊り弱い、含有物なし、鉄分がしみ出し赤茶色が全体に広がる。Φ1cm以下の小円礫を含む。
- 2-1層 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 細砂層、粘性、繊りなし、含有物なし、Φ2cmの小円礫を少量含む。砂が細かい。
- 2-2層 明黄褐色土 (10YR6/8) 粗砂層、粘性、繊りなし、含有物なし、Φ2cmの小円礫を含む。
- 3層 褐灰色土 (10YR5/1) 細砂層、粘性、繊りなし、含有物なし、Φ1~2cmの小円礫を少量含む。砂が細かい。
- 4層 褐灰色土 (10YR4/1) 粗砂礫層、粘性、繊りなし、含有物なし、Φ5~30cmの円礫を多量に含む。自然堆積層で、砂粒が粗い。



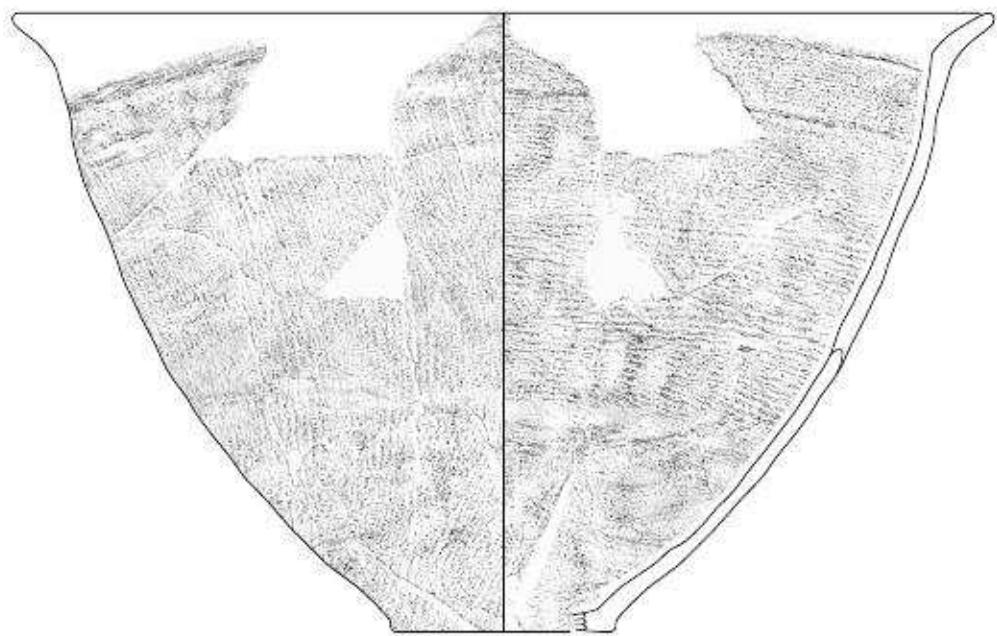
第10図 下河原遺跡 石列断面図



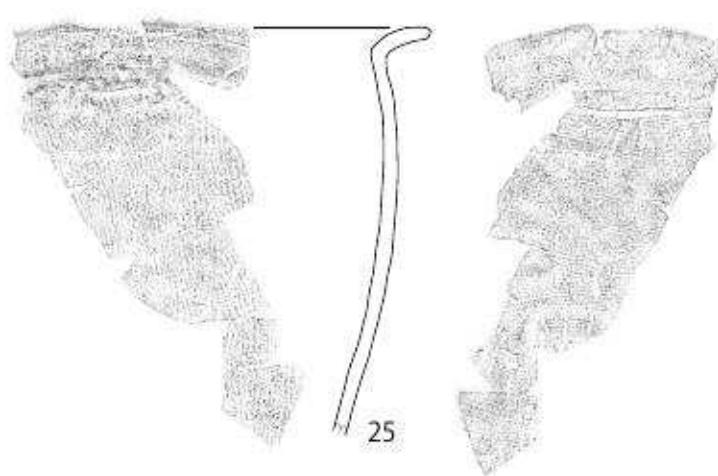
第11図 中島遺跡出土遺物1



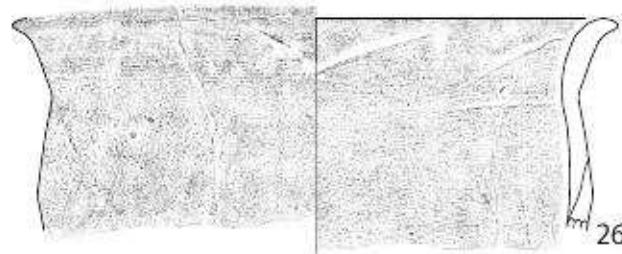
第12図 中島遺跡出土遺物2



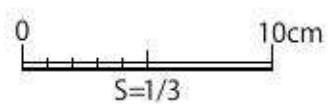
24



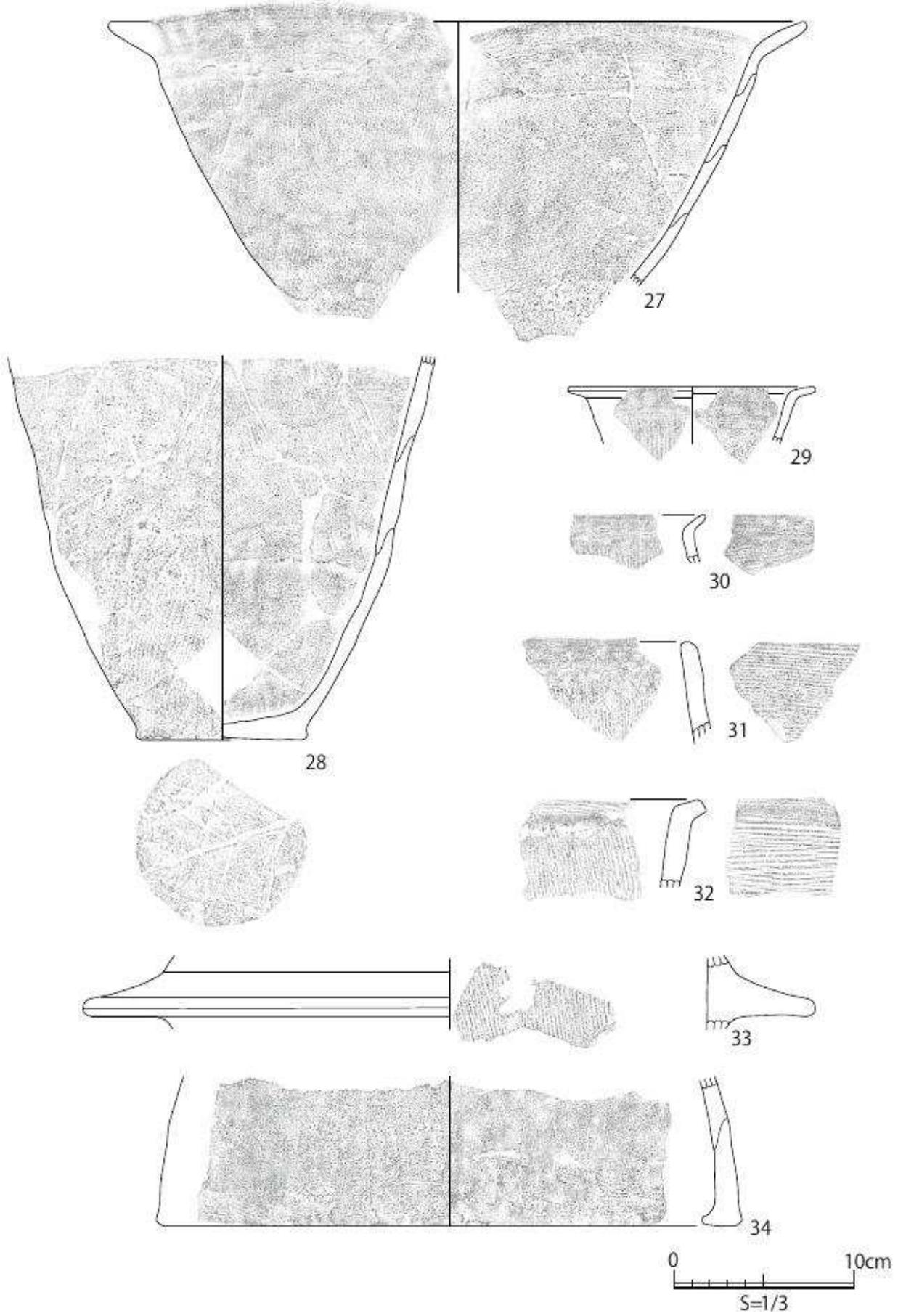
25



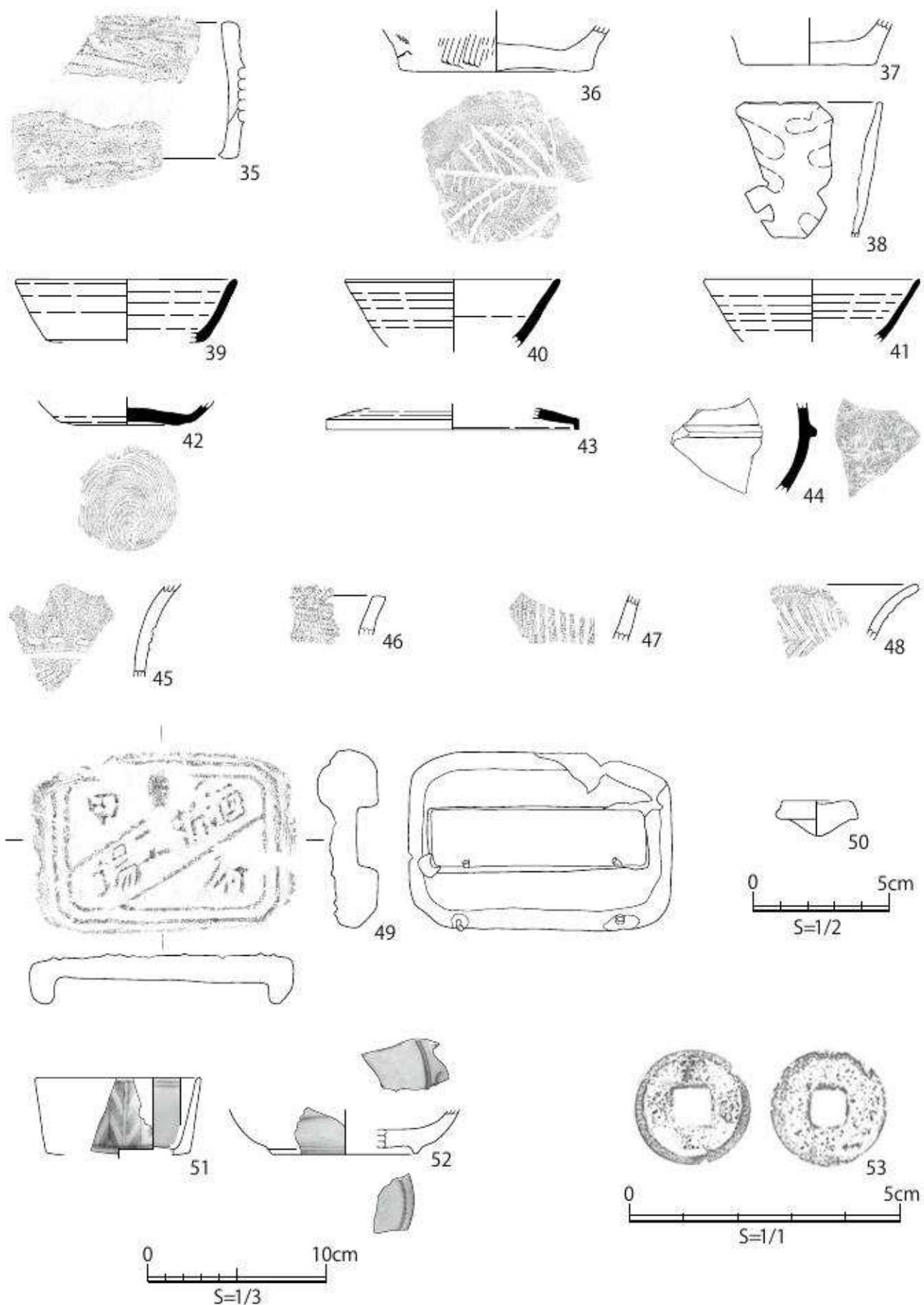
26



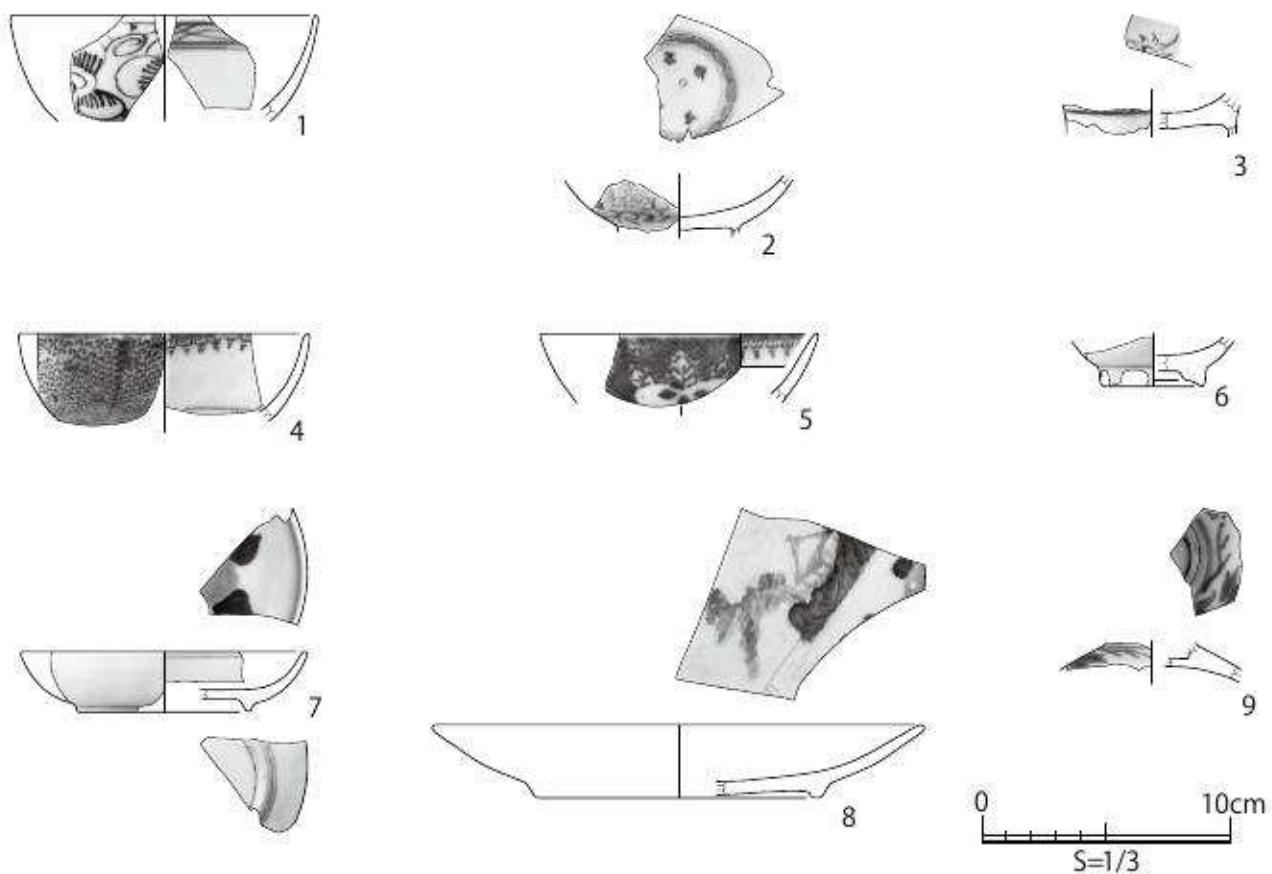
第 13 図 中島遺跡出土遺物 3



第14図 中島遺跡出土遺物4



第15図 中島遺跡出土遺物5



第16図 下河原遺跡出土遺物

写真図版1



インターンシップ学生の作業状況



碎石搬入状況



ペルコン設置状況



遺物出土状況2（中島遺跡）



遺物出土状況1（中島遺跡）



表土剥ぎ（中島遺跡）



プレハブ設置状況



レンタル車両

写真図版 2



調査前風景（中島遺跡）



表土剥ぎ（下河原遺跡）



発掘調査風景 1（中島遺跡）



調査前風景（下河原遺跡）



測量作業状況（中島遺跡）



発掘調査風景 2（下河原遺跡）



朝礼と安全管理



ラジコンヘリによる空撮（委託）



杭打ち作業（委託）



安全管理点検



発掘調査風景 1（下河原遺跡）



記者発表



遺物出土状況（下河原遺跡）



堤防跡検出状況（下河原遺跡）



発掘調査風景 2（中島遺跡）



測量作業状況（下河原遺跡）

写真図版4



中島遺跡出土遺物1（底・外面）



中島遺跡出土遺物1（みこみ・内面）



中島遺跡出土遺物2（底・外面）



中島遺跡出土遺物2（みこみ・内面）



中島遺跡出土遺物3



中島遺跡出土遺物4



中島遺跡出土遺物5



中島遺跡出土遺物6



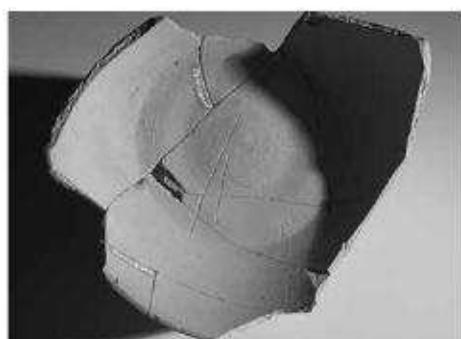
中島遺跡 第12図 No.18



「馬」刻書拡大



中島遺跡 底部調成痕



中島遺跡 第11図 No.2



中島遺跡 第15図 No.38（表） 中島遺跡 第15図 No.38（裏）



中島遺跡出土遺物 7



中島遺跡出土遺物 8



下河原遺跡出土遺物



中島遺跡出土遺物 9



中島遺跡出土遺物 10

報告書抄録

ふりがな	なかじまいせき・しもがわらいせき							
書名	中島遺跡・下河原遺跡							
副題	国道140号(西関東連絡道路)建設事業に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名・番号	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第323集							
著者名	笠原みゆき・長田隆志							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL055-266-3016							
発行機関	山梨県教育委員会・山梨県県土整備部							
発行日	2019年3月15日							
ふりがな 所取遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
なかじまいせき 中島遺跡	山梨市東地内	19205	05027	35° 42' 34"	138° 41' 51"	20170725 ~ 20170908	約540m ²	道路
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	散布地	縄文 平安	なし		土師器・須恵器・陶磁器、 石製品		製塙土器と「馬」の刻 書のある土白石器片が 出土している。	
ふりがな 所取遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
しもがわらいせき 下河原遺跡	山梨市東地内	19205	05029	35° 41' 37"	138° 41' 57"	20170725 ~ 20170908	約770m ²	道路
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	その他 (堤防跡)	中世 近世	堤防跡		陶磁器・木片・ガラス等		堤防跡の基礎となる石 列が発見された。『山梨 県堤防・河岸遺跡分布 調査報告書』では、分 布が確認されていない 場所での調査となり、 新資料として追加する ことができた。	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第323集

中島遺跡・下河原遺跡

国道140号(西関東連絡道路)建設事業に伴う発掘調査報告書

発行日 2019年(平成31年)3月15日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

FAX 055-266-3882

発行 山梨県教育委員会・山梨県県土整備部

印刷 株式会社 島南堂印刷所